

史跡 斎宮跡

平成5年度現状変更緊急発掘調査報告

平成7年3月

明和町教育委員会

序

史跡斎宮跡は、指定面積が137haに及ぶ全国でも有数の大規模史跡です。

昭和45年以来続いてきている発掘調査の面積は約17haに達し、時代による変遷や、方格地割の規模、建物配置などその様相が次第に明らかになりつつあり、注目度はますます高くなってきています。

しかし、斎宮の全貌を明らかにするには、発掘調査にまだまだ長い年月を要します。

また、この貴重な文化遺産を乱開発から守り後世に残すため、昭和54年以来土地の公有化を年次的にすすめており、平成6年度までの土地公有化面積は約21haに達しているところであります。

公有化した土地は現在までに、斎王の森・上園・篠林・塚山の各広場や斎宮歴史博物館南部の古里ひろばなどとして整備され、斎王まつりをはじめ各種行事の開催、県内の学校の遠足などにも活用され、その利用頻度は年々高まっているところであります。

一方、斎宮跡は史跡内に600世帯におよぶ住民の生活が営まれているという特殊性から、日常生活に伴う史跡現状変更は、平成5年度の申請件数としては48件を数え、8件について事前の発掘調査を行いました。

その結果、史跡の南限に近い第102-1次調査では、前年に検出された八脚門に続き方格地割を裏付ける重要な成果が得られたことは特筆できることであります。

最後に、発掘調査にあたりましては斎宮歴史博物館調査研究課及び地元地権者のみなさまのご理解とご協力を賜りました。末筆ではありますが、ここに厚くお礼を申し上げます。

平成7年3月

明和町教育委員会

教育長 山 中 昇

例 言

1. 本書は、明和町教育委員会が平成5年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

なお、第102-1～5・7次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第102-6・8次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。

2. 調査は明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課及び明和町教育委員会斎宮跡対策課が担当した。

3. 現地の発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏、赤岩 操、前川友秀と明和町教育委員会斎宮跡対策課の森田幸伸があたった。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子の協力を得た。

4. 遺構実測図、遺構表示などは、すべて斎宮歴史博物館刊行の発掘調査概報に準じている。

目 次

1. 前 言	1
2. 第102-1次調査	2
3. 第102-2次調査	4
4. 第102-3次調査	5
5. 第102-4次調査	8
6. 第102-5次調査	9
7. 第102-6次調査	12
8. 第102-7次調査	15
9. 第102-8次調査	17
(付篇) 史跡現状変更等許可申請	21

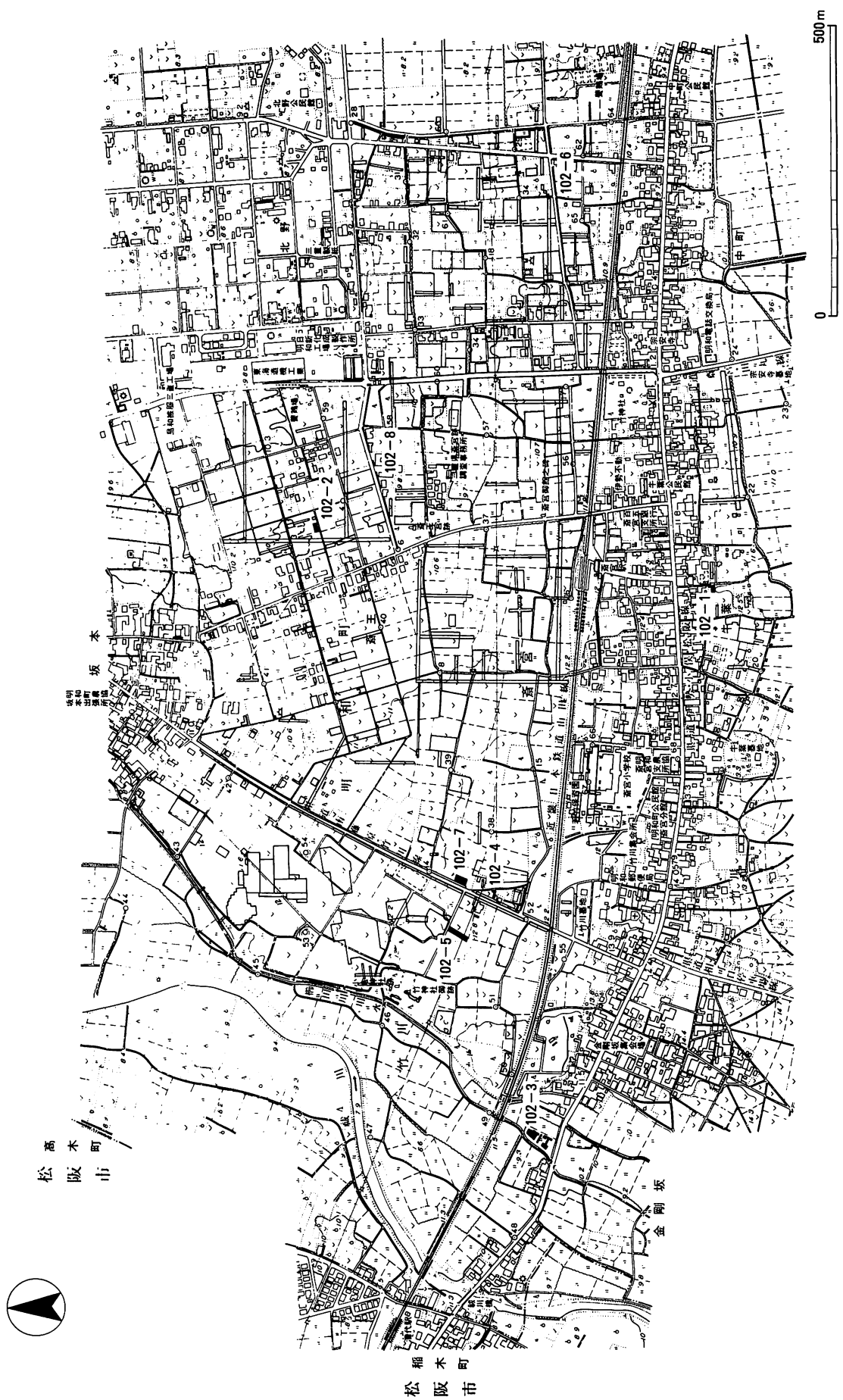
表・挿図目次

[表] 1. 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2. 平成5年度現状変更等許可申請一覧表	22
3. 掘立柱建物等一覧表	24

[図] 1. 平成5年度発掘調査箇所位置図 (1/10,000)	
2. 第102-1次調査 調査区位置図 (1/5,000)	2
3. 〃 遺構実測図(1/200)	2
4. 〃 遺物実測図(1/4)	3
5. 〃 周辺遺構配置図 (1/1,000)	3
6. 第102-2次調査 調査区位置図 (1/5,000)	4
7. 〃 遺構実測図(1/200)	4
8. 第102-3次調査 調査区位置図 (1/5,000)	5
9. 〃 遺構実測図(1/200)	6
10. 〃 遺物実測図(1/4)	7
11. 第102-4次調査 調査区位置図 (1/5,000)	8
12. 〃 遺構実測図(1/200)	8
13. 第102-5次調査 調査区位置図 (1/5,000)	9
14. 〃 遺構実測図(1/200)	10
15. 〃 遺物実測図(1/4)	11
16. 第102-6次調査 調査区位置図 (1/5,000)	12
17. 〃 調査区配置図 (1/1,000)・遺構実測図(1/200) ...	13・14
18. 第102-7次調査 調査区位置図 (1/5,000)	15
19. 〃 遺構実測図(1/200)	15
20. 〃 遺物実測図(1/4)	16
21. 第102-8次調査 調査区位置図 (1/5,000)	17
22. 〃 調査区配置図 (1/1,000)・遺構実測図 (1/200) ...	19・20

写 真 図 版

PL 1. 第102-1次調査	上：調査区全景 (南から)	下：調査区全景 (西から)
PL 2. 第102-2次調査	上：調査区全景 (西から)	下：調査区西半 (南から)
PL 3. 第102-3次調査	上：申請地北半 (南西から)	下左：S D 7080 (南西から) 下右：S D 7085 (南西から)
PL 4. 第102-4次調査	上：調査区全景 (南東から)	下：S A 7090 (南から)
PL 5. 第102-5次調査	上：調査区全景 (北東から)	下：調査区南端 (北東から)
PL 6. 第102-6次調査	上左：A区 (西から)	上右：B区 (東から)
	下左：C区 (西から)	下右：D区 (西から)
PL 7. 第102-7次調査	上：調査区全景 (北東から)	下：S K 7135 (北から)
PL 8. 第102-8次調査	上左：A区 (東から)	上右：B区 (西から)
	下左：C区東半 (西から)	下右：C区西半 (西から)



第1図 発掘調査箇所位置図 (1 : 10,000)

1. 前 言

斎宮跡では毎年50件前後の史跡現状変更の許可申請が出されているが、平成5年度も例年に変わらず48件の申請が提出された。その大半が史跡内住民による住宅や農業用倉庫の増築や改築を内容とするもので、申請者からの連絡を得たものについてのみ基礎掘り等に際し工事立会いを実施しているものの、いずれも事前の発掘調査を実施するには至らなかった。

ここに報告する緊急発掘調査は農地転用を伴う住宅や農業用倉庫等の新築に伴って実施し得たもの及び地域生活環境整備にかかる公共事業のうちの2件である。

そのほとんどが様々な制約により狭小な調査面積ではあるが、一定の成果を得ている。中でも年度当初に実施した第102-1次調査ではその直前に実施した第96-5次調査で検出した八脚門に取りつく柵の東辺に相当すると考えられる柱列の一部を検出したほか、第102-3次調査はこれまで発掘調査の及んでいなかった史跡西部の水田地帯で初めての調査で、溝等の検出は今後の調査の推進にとって極めて重要な知見を得たものと言える。

さらに、第102-4・5・7次調査はいずれも史跡西部の斎宮歴史博物館南方の地域に集中して実施することとなった調査であるが、弥生時代中期の方形周溝墓の検出をはじめこの地域を解明していくうえで一助となる貴重な成果である。

また、第102-6次調査は近年平安時代前期における中枢部かとも考えている地域での調査で、生活排水の流入等で困難な調査ではあったが、今後その成果が生かせるものと期待している。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調 査 面 積 (㎡)	補助金事業調査件数	補助金事業調査面積(㎡)
S. 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H. 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

2. 第102-1次調査 (6ADS)

調査場所 多気郡明和町斎宮字木葉山119-5
 原因 車庫兼物置新築
 調査期間 平成5年4月5日～4月23日
 調査面積 60m²



第2図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、旧参宮街道沿いに続く住宅地域の南側に位置する雑種地でこれまで自家用駐車場として利用されていたが、個人の車庫兼物置の新築が行われるためその事前調査として実施したものである。

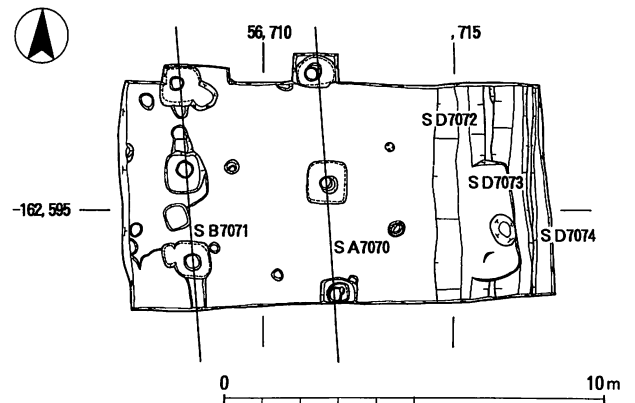
この周辺では個人住宅等の新築に伴う史跡現状変更が近年増加しており、小規模ながら何か所かで事前の発掘調査が行われている。当該地の南西にあたる第96-5次調査では今回の調査に先立ち平安時代初期の八脚門 (S B 6850) 及び大型の掘立柱建物 (S B 6845) が発見されている。

2) 調査概要

イ. 遺構

調査区は駐車場として使用されていたこともあって、碎石を含む盛土で地面は固くしまっており、現在の地表面から深さ約60cmで遺構検出面に達した。

なお、調査面積は東西約10m、南北約6mの60m²である。検出した主な遺構としては平安時代初期の柵列1条や大型の掘立柱建物1棟と中世以降の遺物を含む溝3条などがある。



第3図 遺構実測図 (1/200)

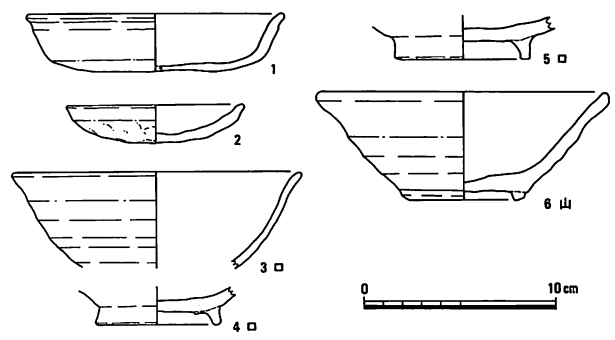
S A 7070 南北方向に延びる柵列の柱掘形2間分を確認し、柱間は10尺 (約3m) を測る。この柵列は第96-5次調査で発見された八脚門から東へ続くS A 6849 (板塀) の東南角から北進する柵列の一部であると考えられる。

しかし、第70-3次調査で検出した柵列S A 5110では八脚門の中心線から西へ約52mに角部は位置するが、東においては約54mと異なっていることが判明した。

S B 7071 柵列にほぼ並行して西側約3.6mで柱間8尺 (約2.4m) の大型の柱穴を3カ所検出したが、この建物は調査区外の西側へさらに延びるものとする。柱穴の大きさは柵列のものと比較してもほぼ同規模であり、柱の抜き取り痕跡が見られる。

S D 7072~7074 調査区の東側で南北方向の溝3条を検出した。S D 7072・7073はいずれも断面は浅いU字形で幅約1m、深さ約30cmを測るが、S D 7074は調査区壁際で一部を確認したにすぎないため、形状及び規模ともに不明である。

ロ. 遺物 遺物の出土量は包含層、遺構埋土を含めても少量ではあったが、
 時期的には奈良時代後期から平安時代初期の土師器と平安時代末期から鎌倉時代の土師器や山茶碗とに大別される。

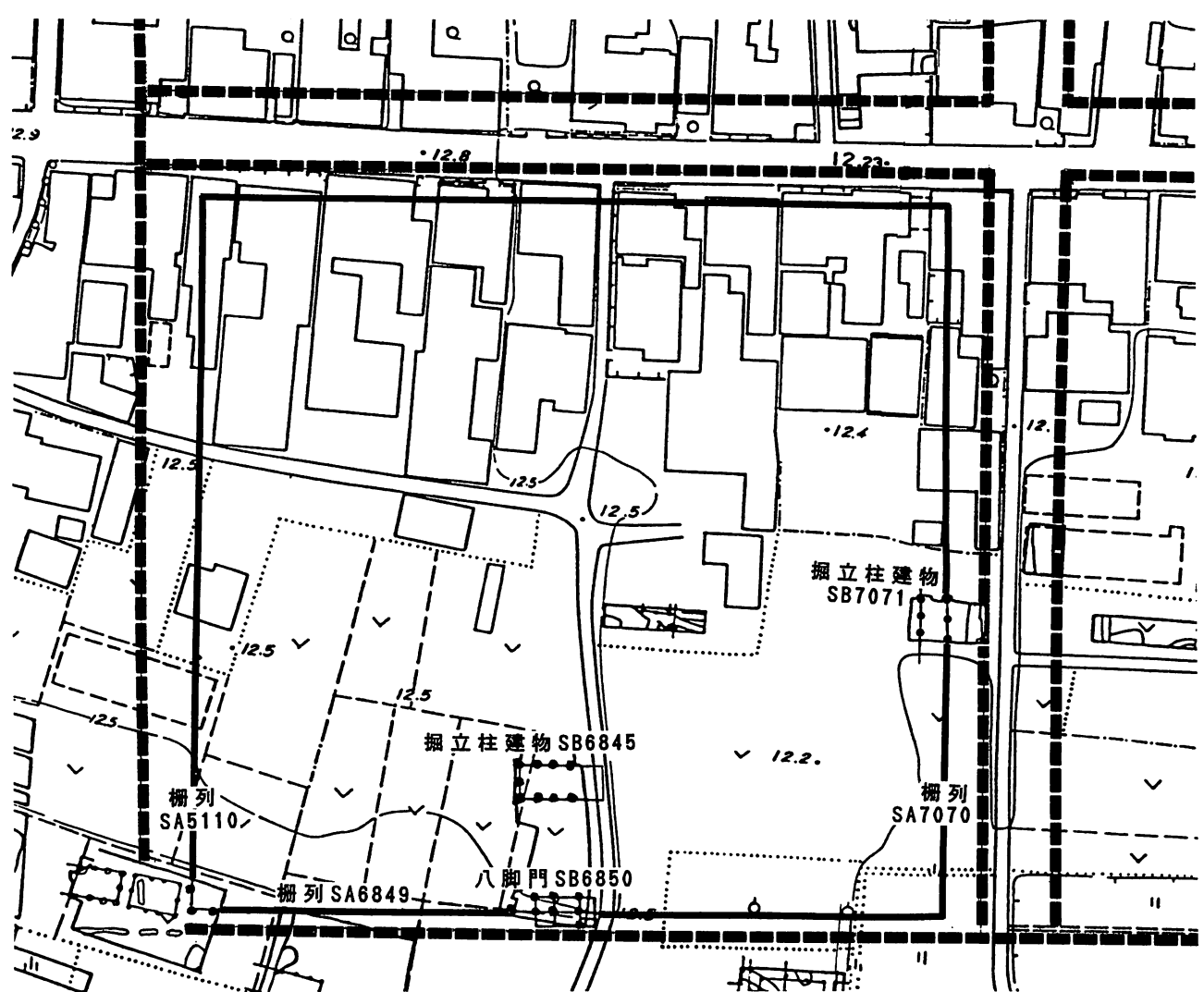


第4図 遺物実測図(1/4) SB7071: 1、包含層2~6

とくに1はSB7071の柱掘形から出土したもので、当該建物及びこれと併存すると考える柵列の時期を示す貴重な資料である。

ハ. まとめ 今回の調査は調査面積が小規模ではあったが、大型の柱穴が明瞭に検出され、八脚門に取り付く柵列の一部であることが確認された。これらの柵列による区画の東西方向の距離は約106mに及んでおり、当該時期の史跡東部に見られる一辺約120mの方格地割がこの地域に及ぶこともあらためて再確認することとなった。

今後は周辺地域の発掘調査の進展とともに蓄積される資料をもとに当調査区の遺構の性格付けをさらに検討していく必要がある。



第5図 周辺遺構配置図(1/1,000)

3. 第102-2次調査 (6AED-J)

調査場所 多気郡明和町斎宮字楽殿2882-5 他
原因 個人住宅の新築
調査期間 平成5年6月11日～7月26日
調査面積 90m²



第6図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡の中央北部に位置し、通称「歴史の道」と呼ばれる町道塚山線沿いの楽殿地区に所在する。近年この周辺では住宅の新築に伴い小規模なものばかりであるが事前の発掘調査が増加しているものの、計画調査としてはほとんど実施されておらず、遺跡の実態があまり解明されていない地域でもある。

当該地の東側では第81-4次調査が実施されており、北調査区では史跡南西部の古里地区から北辺を巡り、史跡東端に至る鎌倉時代大溝の一部が確認されている。

2) 調査概要

イ. 遺構

調査区は現況畑地であり、南北6m、東西15mのトレンチを設定して、90m²を調査した。遺構面までは耕土、黒色土が堆積し、地山面までの深さは50～60cmであった。

調査の結果、現代の攪乱溝や土塚が多く、明瞭な遺構は少なく、溝1条

(SD7075)や土塚、浅いピットを検出したのみで、時期および性格も不明である。

ロ. 遺物

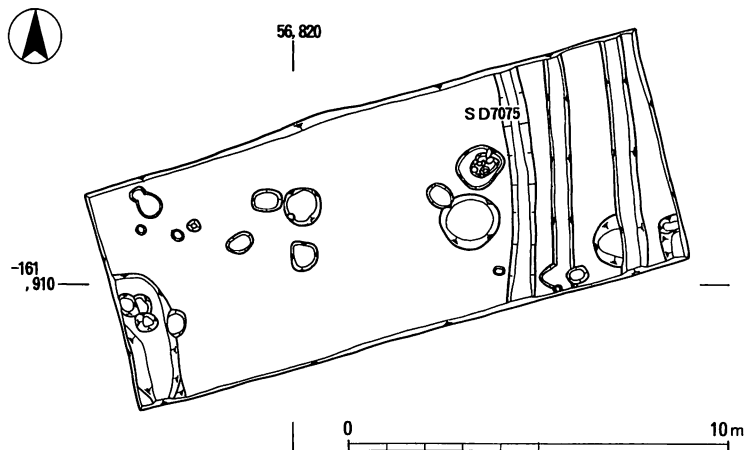
遺物としては表土及び包含層からは土師器小片が極少量見られるのみで、遺構埋土からの出土は無く、遺構の時期決定も困難な状況であった。

ハ. まとめ

今回の調査では、調査面積も少なく明瞭な遺構の検出にはいたらなかったが、東隣の第81-4次調査の南調査区でも明確な遺構並びに遺物はほとんど確認されていない。

また、これまで実施されている周辺の調査結果からも史跡北部にあたるこの地域では斎宮寮に直接関連すると思われる遺構は検出されていない状況である。

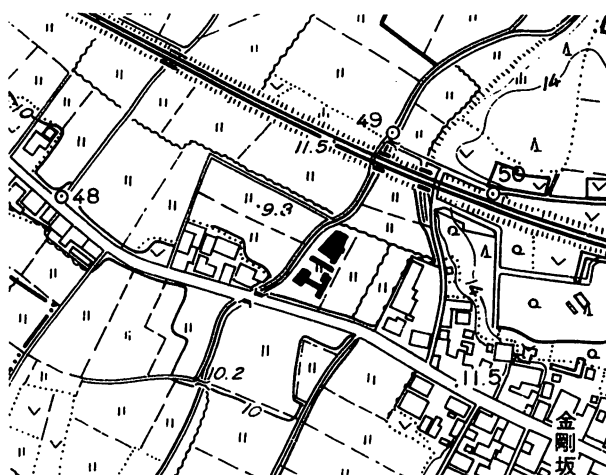
しかし、当地区の西側に隣接する篠林地区から古里地区にかけては奈良時代及び鎌倉時代の遺構が顕著で、東側の西前沖地区では平安時代の遺構が確認されていることから、今後は周辺の計画的な発掘調査の実施により当調査区周辺における遺構の性格や様相を検討していく必要がある。



第7図 遺構実測図 (1/200)

4. 第102-3次調査 (6AAQ)

調査場所 多気郡明和町竹川字花園663-1 他
原因 盛土
調査期間 平成5年5月11日～5月27日
平成6年2月2日～3月29日
調査面積 390m²



第8図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡南西部に位置し、祓川の氾濫源とされる現況水田地帯に立地しており、旧参宮街道沿いの農地に盛土を行うためその事前調査として実施したものである。

また、この周辺での発掘調査はほとんど実施されておらず地下遺構の実態は解明されていない場所でもある。

調査対象地は約1,200m²と広い範囲に及んでおり、まず最初に遺構の全体像を把握するために必要に応じて幅2mのトレンチを5箇所設定した。

さらに、このトレンチ調査の結果をふまえ、さらに遺構の実態を把握するために、3箇所の調査区を追加設定して補足調査を実施した。

2) 調査概要

イ. 遺構 調査区の現況は水田で、遺構検出面は南端で表土下約60cm、北端で表土下約90cmと南から北にやや傾斜している。全体に遺構は希薄で12条の溝と若干の小ピットを検出したにとどまっている。

S D 7080 幅約1.5m、深さ約1.0mで、断面逆台形を呈し、この埋没時期は平安時代末から鎌倉時代のもと考えられる。

S D 7076 幅約0.8m、深さ約0.6m前後で断面はU字形を呈しており、遺構埋土の重複関係からS D 7080よりも古い。

S D 7081 幅約40cm、深さは10cm前後と浅く、遺物の出土は見られなかった。

S D 7082・7083 いずれも幅30～50cm、深さ10～30cmであり、奈良時代末から平安時代初めには埋没したもと考えられる。

S D 7088 二段掘りの溝で上段は幅約2.0m、中段の幅は約0.6m、中段までの深さ約0.5m、溝底までの深さは約0.7mを測り、平安時代初め頃のもと考えられる。

S D 7087 溝の一部分のみを確認したものであり、幅約2.0m、深さ約0.8m、断面は逆台形を呈する。時期は平安時代末頃と思われる。

S D 7077 新たに補足調査で確認したものでS D 7076とほぼ同規模である。遺構の新旧関係は古い方からS D 7077→S D 7076→S D 7080である。

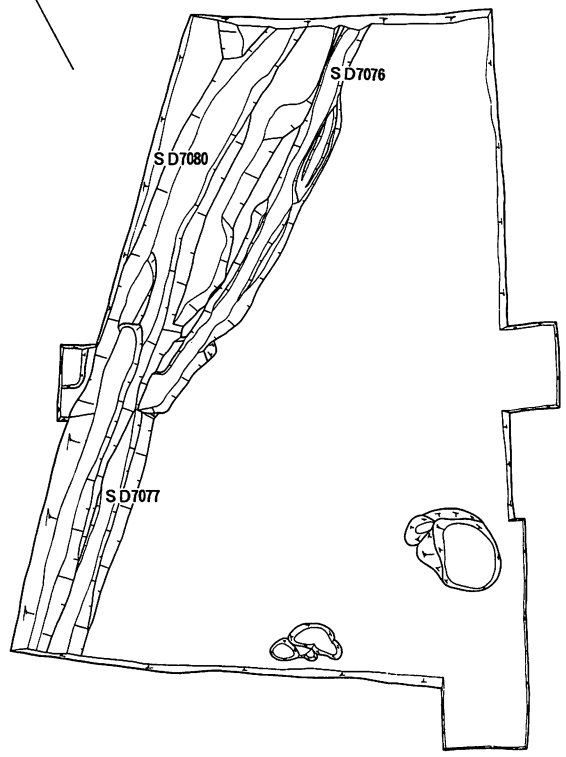
S D 7085 溝の東側部分のみを検出したもので、その全体の規模は明らかではないが、推定幅5.0m前後、深さ0.8m以上と考えられる。

S D 7086 西流するS D 7086は幅約1.2m、深さ約0.4m、断面逆台形である。



55.770

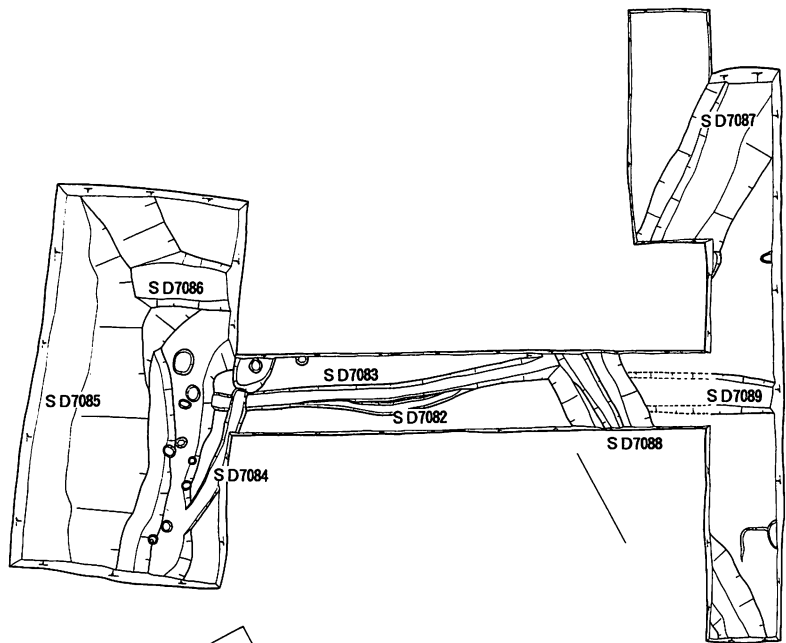
55.760
-162.280



55.750
-162.280



-162.300



-162.310

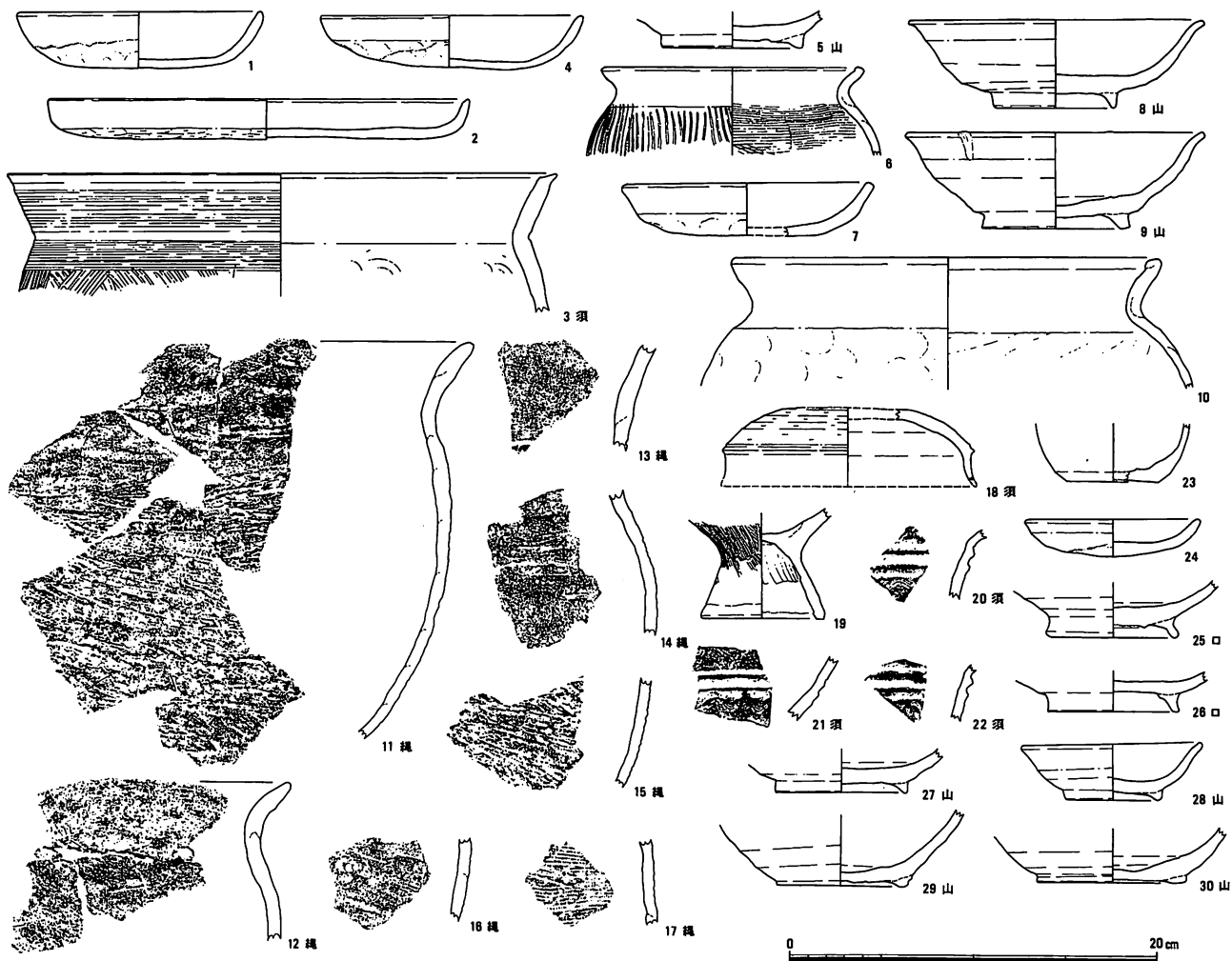
0 10m

第9図 遺構実測図 (1/200)

S D7084 幅約0.4m、深さ0.1m前後と浅く、遺物の出土は認められなかった。

S D7089 断面逆台形で幅約1.0m、深さ約0.6mを測る。時期は不明である。

口. 遺物 表土及び包含層、遺構埋土を含めても全体に遺物の出土量は少ないが、包含層からは縄文時代晩期から弥生時代の土器が顕著である。各溝からは奈良時代末～平安時代初頭の土師器片や平安時代末～鎌倉時代の山茶碗片が出土しているが、いずれも少量で埋土上層に堆積し、溝底に至っては遺物の出土は殆ど見られなかった。



第10図 遺物実測図 (1/4) S D7082: 1・2・4、S D7088: 3、S D7078: 5・6、S D7080: 8~10、包含層: 11~30

ハ. まとめ 今回の調査地は、当初祓川の氾濫源として河原石の堆積が考えられ遺構の存在そのものが懸念されていたが、調査区全面で明黄褐色土の地山を確認し、大小の溝や柱穴等が一部で検出された。とくに調査区西端で検出したS D7080はS D7076・7077とも重なり合いながら、現在櫛田川用水となっている通称御旅川（旅屋川）に沿って北流するものと思われる。また、S D7088が南側へ延びることやS D7087がさらに北側に続くこともわかったが、両溝がどのように結ばれるかは解明できなかった。

全体的には遺構・遺物とも希薄な場所ではあったが、台地西側の祓川沿いの水田地帯では初めての発掘調査であり、この知見をもとに今後の当地域及び現在の櫛田川用水の下流域での調査が期待されるとともに、東側の台地部分に存在する遺構・遺物の検討を含めて今回検出した各溝の関連性や当地域の性格を考えていきたい。

5. 第102-4次調査 (6ACF-A)

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏365-1
 原因 個人住宅の新築
 調査期間 平成5年9月14日～9月30日
 調査面積 50m²



第11図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡西部の東裏地区に位置し、県道南藤原・竹川線沿いの東側に所在する。当該地内では昭和61年度第64-10次調査（農業用倉庫新設に伴う事前調査）が行われ、奈良時代の掘立柱建物 S B 4695 が検出されている。また、この周辺では昭和51年度第12-3次、第13-7次、第13-10次調査、昭和52年度第16-3次調査、昭和54年度第25-11次、第27次調査（計画調査）が行われており、奈良時代を中心とする竪穴住居、掘立柱建物、土師器焼成塚等の遺構や遺物が発見されている。

2) 調査概要

イ. 遺構

調査区は第64-10次調査区の北辺に接するように幅2.5mのトレンチを東西14m、南北6mのL字状に設定し、50m²を調査した。遺構面は後世の開墾等でかなり削平されており、表土下約20cmで達した。

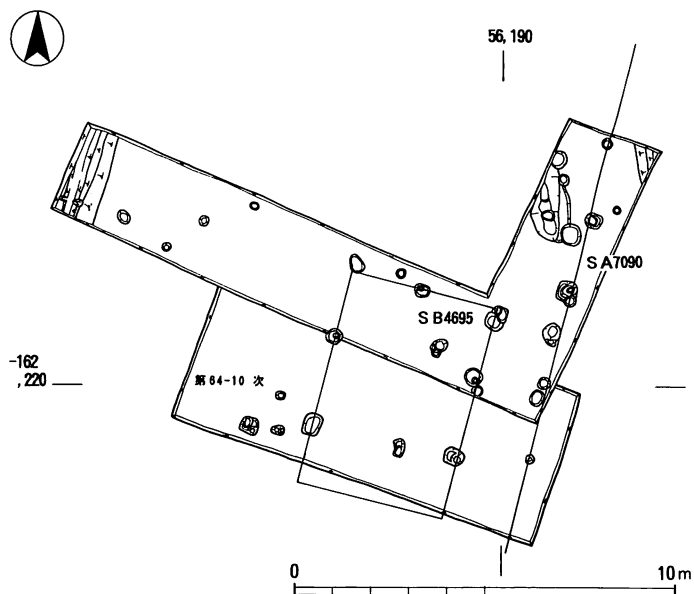
調査の結果、主な遺構として奈良時代と思われる掘立柱建物1棟 (S B 4695) と柵列1条 (S A 7090) を確認した。

S B 4695 北側柱列の確認により南北棟の3間×2間と判明した。

棟方向はN14°Eで梁行の柱間1.9m、桁行の柱間1.9~2.1mを測る。

S A 7090 調査区の東辺で3間分を検出した。柱間は2.1m等間で、S B 4695と棟方向を揃える。
 口. 遺物 遺物はごく少量の出土で、柱穴内からも土師器小片をわずかに確認したにすぎず遺構の時期決定は難しいが、これまでの周辺の調査結果から奈良時代と推定される。

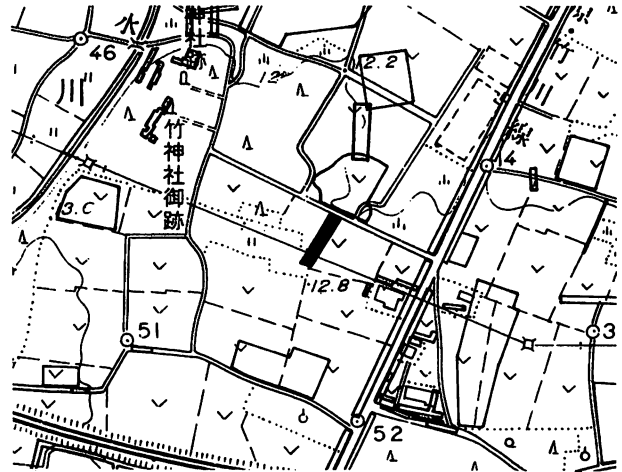
ハ. まとめ 今回の調査区は面積が少なかったものの、前回実施した第64-10次調査を補完する意味で新たな遺構の確認もあり有意義であった。また、当地域は奈良時代の遺構が数多く検出されている状況から奈良時代の斎宮を考える上では重要であり、今後は周辺地域の計画的発掘調査をもとに遺構の性格を検討していく必要がある。



第12図 遺構実測図 (1/200)

6. 第102-5次調査 (6ABJ-D)

調査場所 多気郡明和町竹川字中垣内493-6
原因 個人住宅兼店舗の新築
調査期間 平成5年10月5日～12月9日
調査面積 260㎡



第13図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は史跡西部の中垣内地区に位置し、斎宮歴史博物館及び古里ひろばの南側に所在する。当該地の北側では斎宮跡発見の契機となった古里 (A～E) 地区の調査が行われ、奈良時代大溝・鎌倉時代大溝や古道が確認されている。西側では昨年度第97次調査を実施し、現在山林となっている旧竹神社・小倉神社跡地内に奈良時代大溝が延びていくことが確認されている。さらに南側では第30次調査 (昭和55年度)、第36次調査 (昭和56年度)、第100次調査 (平成5年度) が行われており、飛鳥～奈良時代を中心とする竪穴住居・掘立柱建物・柵列等の遺構や三彩陶器・円面硯等の遺物が発見され、成立期の斎宮を考えるうえでは重要な場所である。

また、弥生時代の遺構・遺物の分布も顕著に見られる地域でもある。この地域ではこれまでに小規模な現状変更に伴う事前調査も数カ所で実施されているが、いずれの調査でも当該時期の遺構・遺物が検出されており、成立期の斎宮跡の様相を知るばかりではなく、それ以前の当地域の様相や歴史的背景を明らかにしていくうえでも極めて重要な地域であるといえよう。

2) 調査概要

イ. 遺構 東西約7m、南北約37mの調査区を設定し、約260㎡について調査を実施した。当該地は従来から荒れ地となっており、調査に着手する前に抜根を目的として表土は除去されていたが、遺構面は調査区の南辺で標高約12m前後を測り、北辺に向けて傾斜しており、その高低差は約30cmである。

調査の結果、主な遺構として弥生時代中期と考えられる方形周溝墓1基のほか、奈良時代の溝・土塚等を確認した。

S X 7100 調査区南部で、周溝の南辺及び東辺部分を検出したものの、調査区外に続いているために全体の規模・主体部ともに明らかにできなかった。周溝の幅は1.0～1.3mで、1辺約7m以上になるものと考えられる。

なお、周溝の南辺からは弥生時代中期の細頸壺がほぼ完形で出土している。

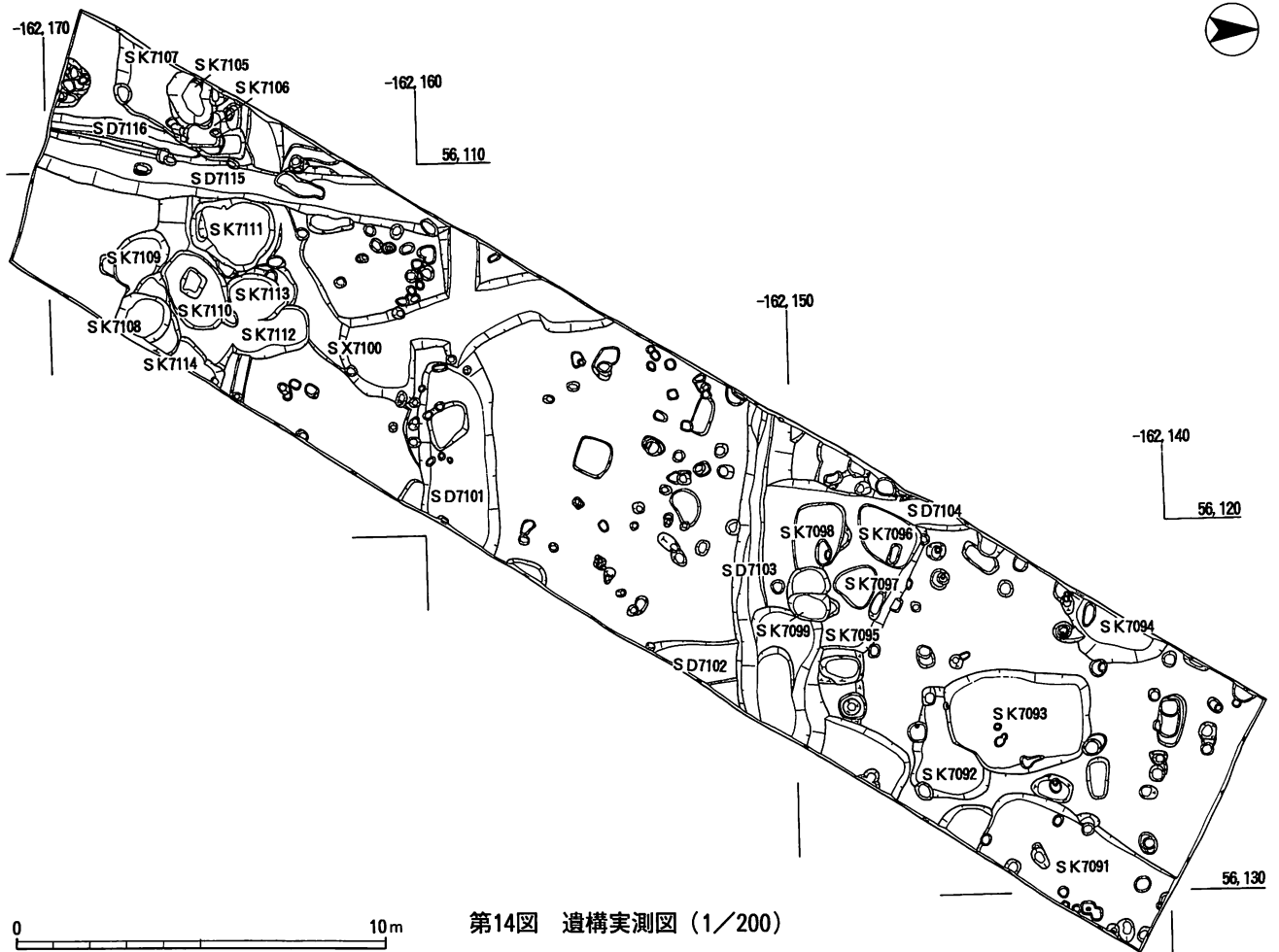
S K 7091 北東の角で検出された大型の土塚で、さらに調査区外に続いているため、規模・形状とも不明な点が多いが竪穴住居の可能性もある。

S K 7092～7099・7105～7114 調査区北部と南端部の2か所で土塚を集中して検出した。北部の土塚 (S K 7092～7099) は規模・形状ともに様々で、奈良時代の土塚のほか室町時

代と考えられる土塚（SK7093・7094・7099）もある。

これに比べて南端部で検出した土塚（SK7105～7114）の大半は長径1.5～2.5m前後、短径1.2～2.0m前後で略楕円形の平面を呈し、奈良時代のものが中心である。

SD7101・7103・7115 いずれも幅1.0m前後、深さ約0.5mを測る、南北方向の溝（SD7115）が1条と、東西方向の溝（SD7101・7103）2条が検出されたが、いずれも調査区外に続くものである。

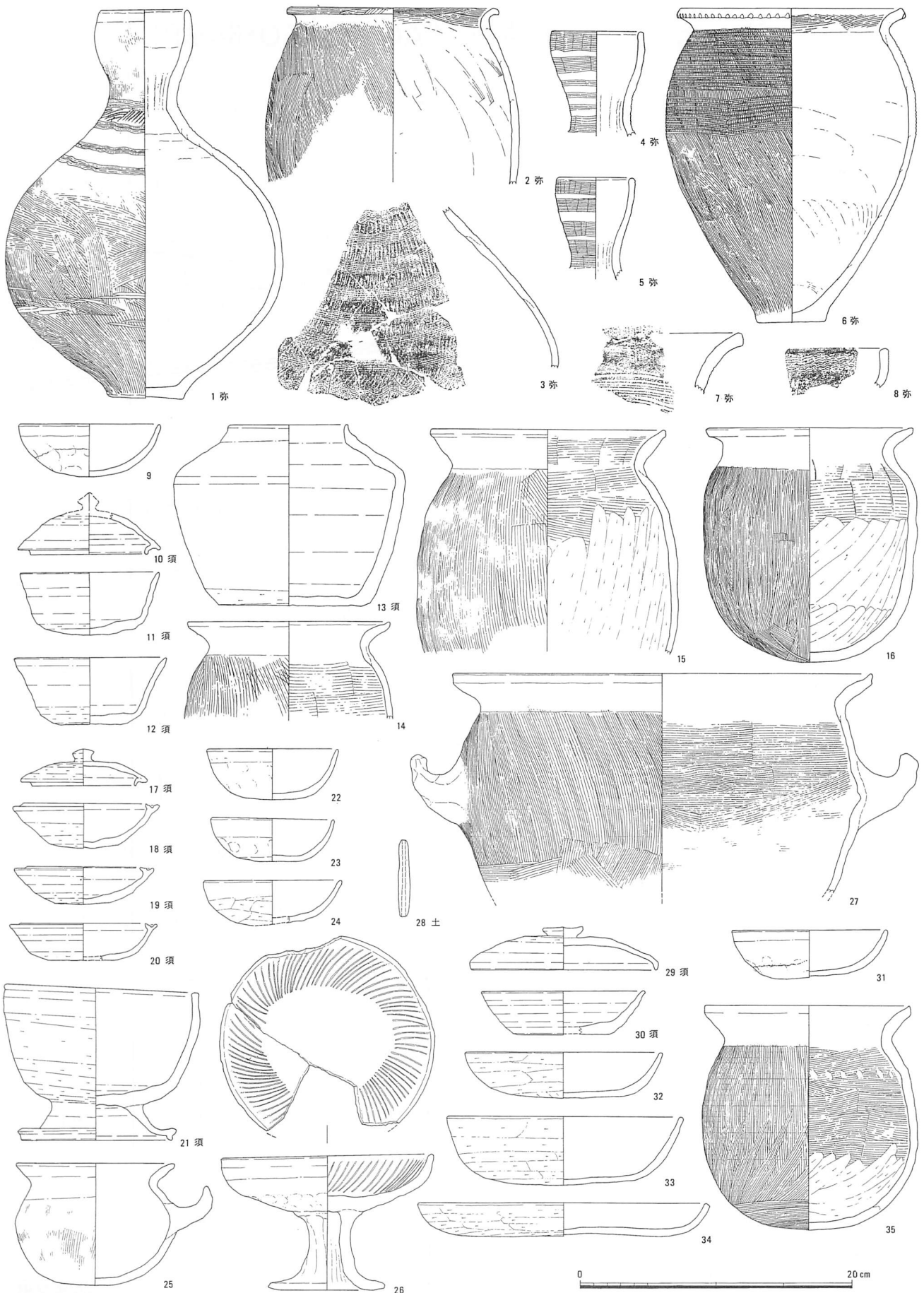


第14図 遺構実測図 (1/200)

ロ. 遺物 今回の調査の着手前から想定されていたとおり、方形周溝墓（SX7100）での出土をはじめ遺物包含層からも弥生時代中期の土器がまとまって出土しているほか、土塚や溝等からは飛鳥時代～奈良時代前半を中心とした土師器・須恵器片が少なからず出土し、特に土塚群からの奈良時代前半の遺物の出土は、当地域における时期的な傾向を改めて再認識するものと言えよう。その他、特筆すべき遺物に布目瓦片、陰刻花文緑釉陶器片、製塩土器片等が各1片出土している。

ハ. まとめ 今回の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓や奈良時代の土塚・溝等が検出されており、これまでの周辺地域での調査でも弥生時代中期の方形周溝墓や竪穴住居の分布が確認されていたり、飛鳥時代～奈良時代前半の遺構・遺物が集中している等の分布状況と共通した結果が得られた。しかし、なお当該地区での調査成果の蓄積はまだまだ少なく、遺跡の実態の具体相を明らかにしたとは言いがたい。

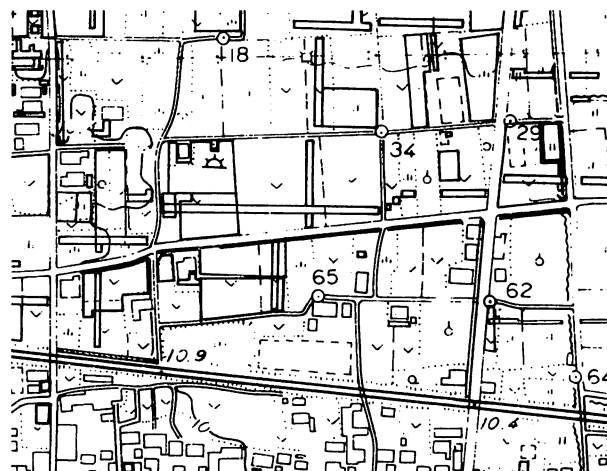
今後は、計画的な発掘調査の一層の進展とその成果をもとにして、遺構の実態や斎宮におけるこの地域の性格の検討を深めていくことが重要であろう。



第15図 遺物実測図 (1/4) S X 7100 : 1~8、S K 7096 : 9~12、S K 7110 : 13~16、S K 7095 : 17~28、S K 7105 : 29~35

7. 第102-6次調査 (6AGN・6AGO・6AGP)

調査場所 多気郡明和町斎宮字鍛冶山内
原因 町道側溝改修
調査期間 平成5年12月16日～平成6年3月17日
調査面積 270m²



第16図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡の東部エンマ川から広域圏道路に至る道路沿いの延長470mに及ぶ既設の側溝を改修するもので、調査は平成5年度分の延長270mについて実施し、残る200mは来年度に調査を予定している。

また、既存住宅との境界に接する部分では既設排水溝や上水道の埋設で攪乱を受けており工事立会いで対応した。

なお、調査区周辺ではこれまで調査がかなり進んでおり、平安時代前半の方格地割の存在など、当該時期の斎宮跡にとって重要な地域であることが判明している。今回の調査でも方格地割の道路や側溝と関連する遺構・遺物の検出が期待された。

2) 調査概要

イ. 遺構 平成5年度の調査は、東端のエンマ川から西に向けてA～D区の調査区を設定して実施したが、調査区の幅が狭いうえ既設の側溝を設置した際の攪乱をかなり受けており、遺構の状況を十分に把握できなかった。以下各調査区について述べる。

A 区 調査区の西半部で東西方向の溝1条や浅いピットを確認したにすぎない。SD7120は調査区西方の第60次調査で検出した方格地割の東西道路北側溝 (SD4020～4022) の延長と考えられる。溝の埋土からはわずかに土師器・須恵器の小片が出土した。

また、調査区東端は池又は旧河川とも考えられたが、その全体は明らかではない。

B 区 調査区のほぼ全面が既設側溝の埋設で削平され、遺構・遺物は確認されなかった。

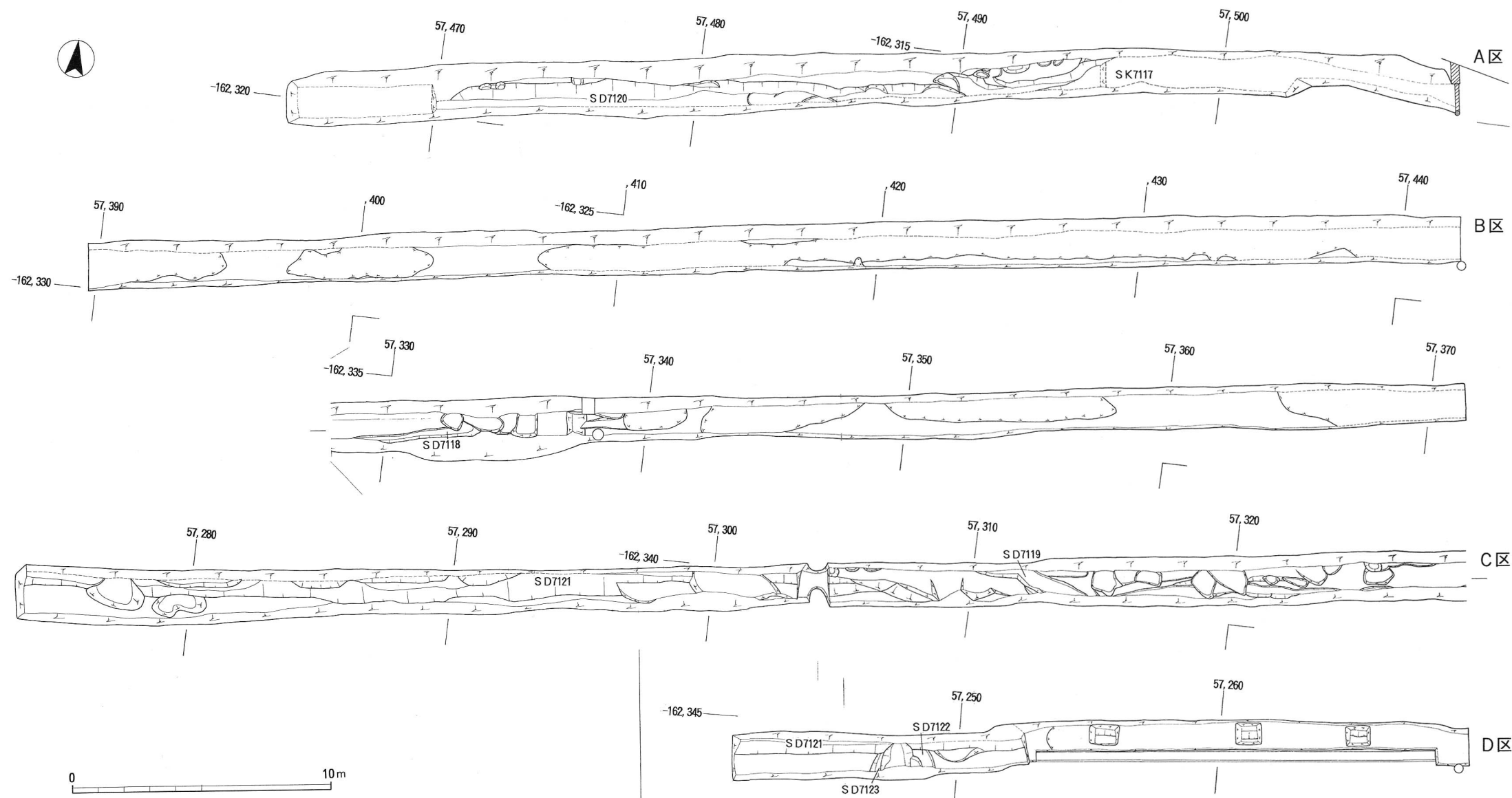
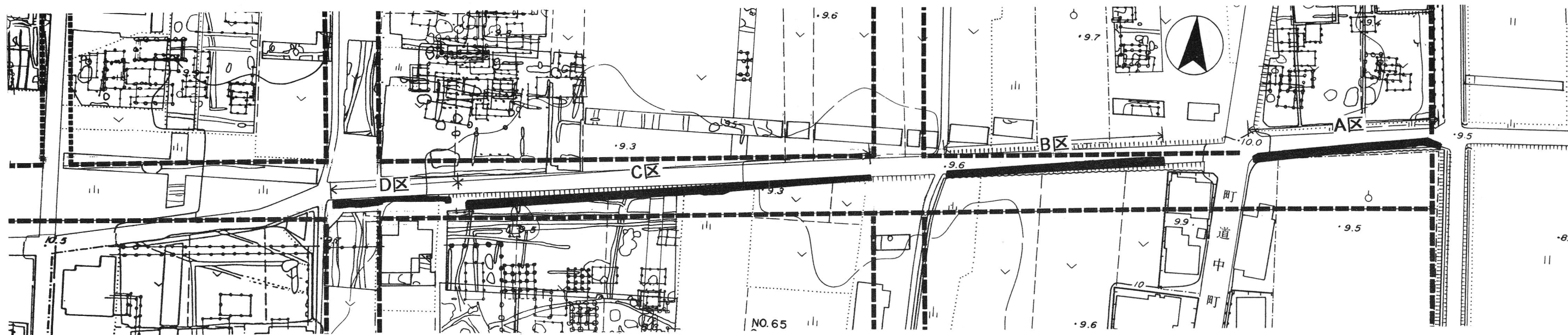
C 区 調査区の東側約1/3は削平のため遺構・遺物は検出できなかったが、残りの部分で東西方向の溝2条やピットが断続的に確認され、SD7118は幅約30cm、SD7121は幅60cm以上と考えられる。

D 区 調査区の東半ではヘドロ状の堆積が厚く、約1m四方のグリッドを3箇所掘削したにすぎないが、西半では東西方向の溝1条を検出し、SD7121の延長部分と考える。

ロ. 遺物 表土及び包含層を含めても遺物整理箱2個分の出土量であった。土師器の小破片がほとんどであるほか、砂岩製の砥石1点が出土している。

ハ. まとめ 今回の調査区は幅が狭く、しかも既設側溝埋設時の攪乱も多かったが、東西方向の区画溝の延長部分を確認したこと、また時期は不明だが区画道路部分においても東西方向の溝が見られるなど多くの成果が得られた。

これらの成果は、今後周辺で行われた計画的発掘調査の成果をもとに当該地域の遺構の性格を検討していくうえで重要なものと言えよう。



第17図 調査区配置図 (1:1,000)・遺構実測図 (1:200)

7. 第102-7次調査 (6ACG-E)

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏318-1
 原因 個人住宅の新築
 調査期間 平成6年2月2日～3月17日
 調査面積 250m²



第18図 調査区位置図 (1/5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡西部の東裏地区に所在する。同じく個人住宅の新築に伴い実施した第102-4次調査区はこの南側に位置する。

周辺の地域では、昭和51年度に第12-3次、第13-7次、及び第13-10次調査が、昭和52年度には第16-3次調査、昭和54年度には第25-11次調査と第27次調査が、昭和61年度には第64-10次調査が行われ、奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物、土師器焼成塚等を検出している。

2) 調査概要

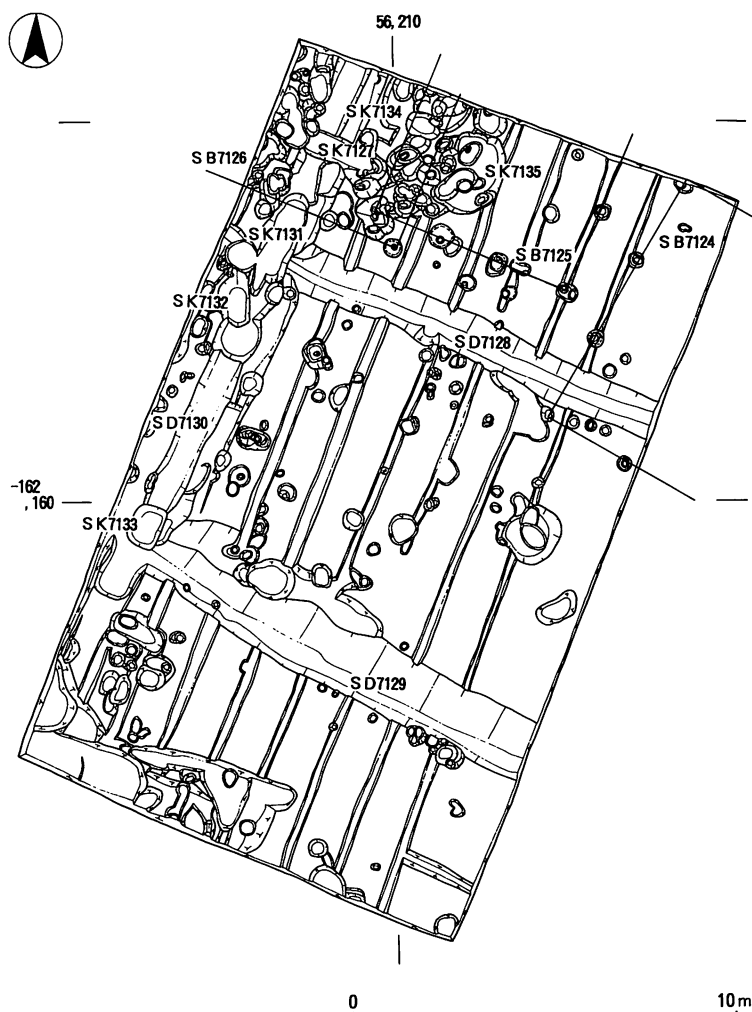
イ. 遺構

約12m×約21mにわたる調査区を設定して実施した。調査範囲内では幅約20cmの耕作溝が南北方向に並走しており、かなり削平されていたが、表土下20～30cmで地山面を検出した。

調査の結果、主な遺構としては、掘立柱建物3棟、溝3条、土塚等を確認した。

S B7124 南北棟で、桁行3間×梁行2間と考えられる建物で、棟方向はN30°E、柱間は桁行・梁行ともに2.4m等間である。

S B7125 桁行3間×梁行2間と考えられる建物で、棟方向はE23°S、桁行の柱間は1.8m、梁行の柱間は2.1mである。



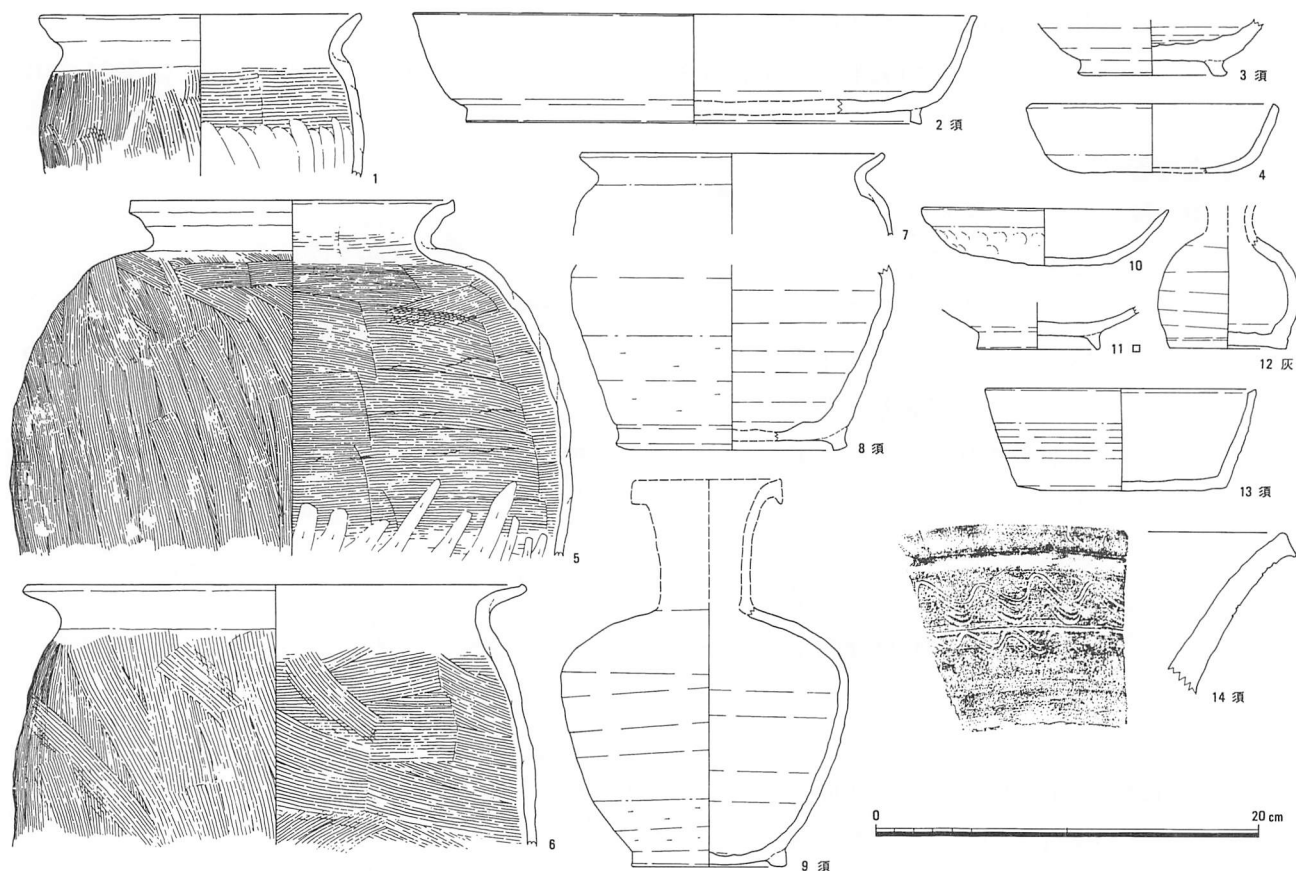
第19図 遺構実測図 (1/200)

S B 7126 調査区北西角で検出したS B 7126はS B 7125と棟方向・規模とも同じものである。

S D 7128～7130 調査区の西辺で確認された南北方向のS D 7130は幅約0.9m、深さ約0.4mで、断面逆台形を呈し、北流する。S D 7128・7129は約8mを隔ててほぼ並行する溝で、いずれも西流する。S D 7128は幅約1.0m、深さ15～30cm、S D 7129は幅1.8m前後、深さ20～30cmを測り、断面形はやや浅い半円形を呈する。

S K 7131・7133・7135 調査区北西部でやや集中して検出された。S K 7135はほぼ円形で直径約2.0m、深さ約0.6mを測り、穴底では柱痕跡かとも考えられるピットが確認された。S K 7131・7133はS D 7130の底で確認されたものである。S K 7131は長径約2.5m、短径約0.5m、深さ20cm前後を測り、平面長方形を呈する。S K 7133は平面方形で長径約1.1m、短径約0.8m、深さ25cm前後を測る。

ロ. 遺物 包含層はすでに削平されており、全体としての遺物出土量は少ない。柱穴内からも土師器小片をわずかに確認したにすぎず掘立柱建物の時期決定はむずかしいが、溝及び土塚からややまとまって土師器・須恵器が出土している。特殊な遺物には包含層から土馬（胴体部）1点、墨書土器2点、転用硯2点、布目瓦片2点が確認された。



第20図 遺物実測図 (1/4) S K 7132: 1～3、S K 7135: 4・5、S D 7130: 6～8、S D 7129: 9、S K 7127: 10、S B 7124: 11・12、包含層: 13・14

ハ. まとめ 今回の調査では、その方向が北に対して大きく東へ偏るS D 7130とこれに棟方向をそろえる掘立柱建物や直交するS D 7128・7129が検出された。この方向性は当地区西方の中垣内地区でこれまで調査された奈良時代の柵列S A 1674（昭和55年度第30次調査）や掘立柱建物S B 2108～2110・2136（昭和56年度第36次調査）とほぼ同じであり、当該時期の斎宮の変遷を考える上で貴重な成果を得たといえる。今後は周辺地域の計画的発掘調査をもとに関連性を検討していく必要があると思われる。

8. 第102－8次調査（6AEI・6AEJ）

調査場所 多気郡明和町斎宮字楽殿地内
原因 町道側溝新設
調査期間 平成6年2月3日～3月14日
調査面積 310m²

1) はじめに 今回の申請地は、「斎王の森」から広域圏道路に至る、保存管理計画における第1種保存地区内に位置する東西方向の町道沿いに側溝を新設するものである。

当該道路の北側には従来から小規模な側溝が設置されているものの、その機能が充分ではないところから、雨水及び生活排水処理の効率を良くし、史跡指定地内に居住する住民の生活環境の向上を目的とする事業のひとつである。

調査の範囲は総延長310m、幅1mであるが、既存住宅との境界に接する部分については既設の排水溝や上水道等が既に埋設されているため、調査の実施は不可能であり止むを得ず工事立会いとして対応した。

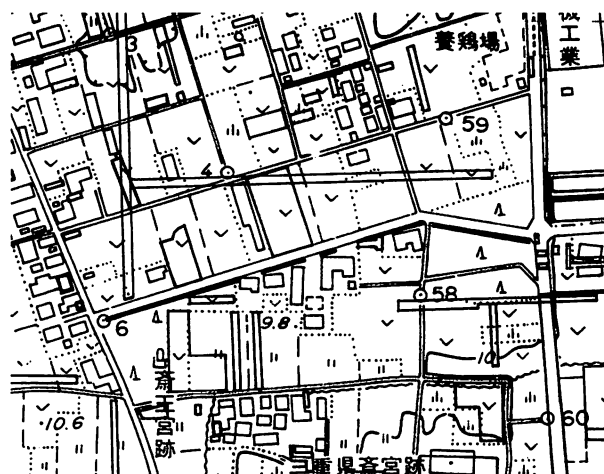
さて、調査区の周辺では既に昭和48年度に範囲確認調査としてトレンチにより実施された第6－1～5次調査や昭和57年度の第42－1次調査、第45次調査及び昭和61年度の第65－2次調査等の計画発掘調査が行われているものの、これらを除けば発掘調査はあまり実施されていない。これは今回の調査区の両側一帯が保存管理計画による土地利用区分における第1種保存地区に当たっているため、一般の史跡現状変更の申請とりわけ住宅の新築等を内容とするものが見られないことによる。

しかしながら、さらにその北側の一帯では第3種保存地区となっているため、平成元年度の町道塚山線（通称：歴史の道）の新設を契機として個人による住宅の新築等を内容とする史跡現状変更に伴う事前の発掘調査が徐々に増加しつつある。これにより、限られた発掘調査実績にすぎないにもかかわらず、当該地域周辺では奈良時代と鎌倉時代の2時期に大別される遺構・遺物が主として確認されているなど、「斎王の森」の南側から史跡東部にわたる一帯で形成されていることが明らかにされている平安時代前期を中心とした方格地割の広がる地域での遺構・遺物とは若干異なる様相を呈する地域であることが知られている。

2) 調査概要

イ. 遺構 調査は、通称広域圏道路と称される町道を東端として、西に向かってA～C区に区分して実施した。

しかし、調査区は排水路の新設工事に伴う掘削の範囲であるために幅がわずか1mと狭く、限られたものであるため、遺構の状況やその実態を十分に把握できなかったとはいえない結果となった。



第21図 調査区位置図 (1/5,000)

A 区 当調査区内では掘立柱建物 2 棟 (S B 7136・7137)、規模の大小はあるものの溝 2 条 (S D 7138・7139) や土坑等を確認した。

掘立柱建物は、いずれも調査区が狭いことから明確ではないが、類似した規模を示す 3 か所のピットが等間隔でそれぞれ直線的に並ぶことから、いずれも梁行 2 間の南北棟の掘立柱建物であると判断したものである。S B 7136は、梁行の柱間が2.4m、棟方向はN11° Eを示し、S B 7137はこれに比べてやや狭く、梁行の柱間は柱間1.8mを測り、棟方向N 5° Eである。

溝は、いずれも南北方向のもので、調査区外に伸びており、規模・方向・時期共にその詳細は不明である。

B 区 土坑 (S K 7140) や溝 2 条 (S D 7141・7142) 及びピット等を検出したが、掘立柱建物等として確認するには至らなかった。

A 区と同様に、いずれの遺構も規模等に不明な点が多いが、当地区内の 2 条の溝のうち S D 7141はほぼ南北に延びるものと考えられるが、S D 7142は略東西方向を示す溝である。

C 区 調査区の延長が他の地区に比べて長いこともあって、土坑 2 基 (S K 7143・7144) や溝 5 条 (S D 7145～7149) など比較的多くの遺構を検出した。

ここでも遺構の規模等を把握するにはいたっていないが、調査区の東部で検出した土坑 (S K 7143) は長径約3.0mに及ぶものと考えられる。

一方、溝では概ね東西方向を示しているもの (S D 7145・7146) と略南北方向を示すもの (S D 7147・7148) 及びその中間でやや北に対して西へ傾く方向を示すと考えられる溝 (S D 7149) とが確認された。

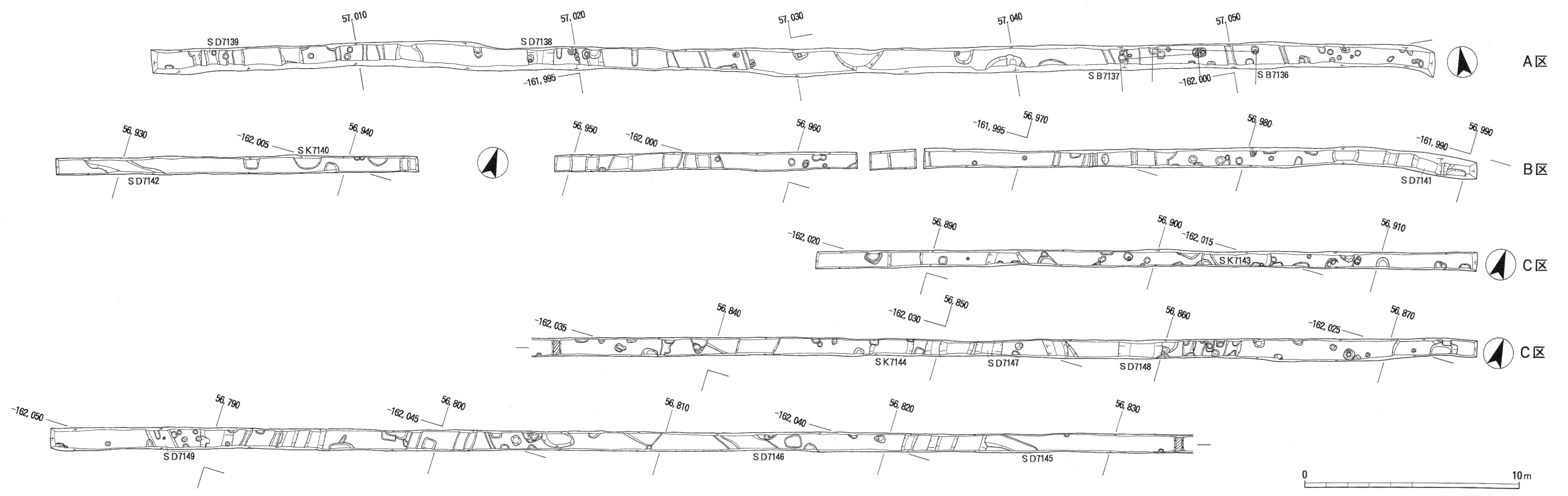
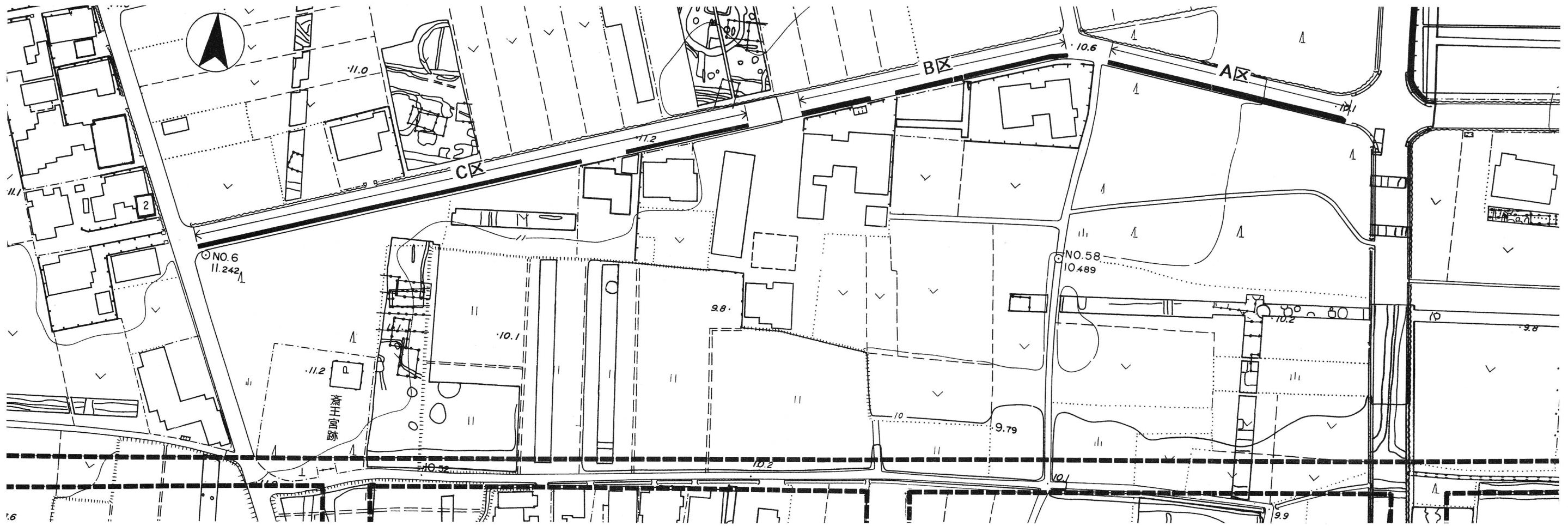
ロ. 遺物 包含層及び遺構の埋土からは、土師器 (甕・杯) や山茶碗等を中心に少なからぬ遺物の出土が見られたが、大半が小破片で、今回の調査区全体からの出土量は遺物整理箱にして約 8 個分ほどである。

特殊な遺物としては、須恵質の風字硯 1 点、転用硯 1 点のほか、細片ながら緑釉陶器の破片 2 点や、墨書土器片 1 点、製塩土器の細片 1 点などがある。

ハ. まとめ 今回の調査区は、前述の第102-6次調査と同様に排水路の設置のための掘削範囲に限られているため幅が狭く、全体に遺構の規模・形態等の詳細を確認することは極めて困難なものであった。

しかし、限られた調査にもかかわらずその成果として、遺構では南北方向に延びる溝が数多く検出されるとともに、一部でこれとほぼ直行するような方向を示す溝が検出されたこと、また遺物では奈良時代及び平安時代後期から鎌倉時代と考えられる遺物を中心に比較的多くの出土が見られたことなどがあげられる。

これらの調査結果のみで斎宮跡の実態解明や調査研究にとって新たに大きな展開を望むことはできないが、今後の当該地域の斎宮跡に於ける位置づけの検討にとって、これまでの周辺の調査成果の関連付けとともに、今後の発掘調査成果の蓄積にあたって貴重な一端を担う資料のひとつとなるであろう。



第22図 調査区配置図 (1:1,000)・遺構実測図 (1:200)

付. 史跡現状変更等許可申請

平成5年度中の齋宮跡にかかわる史跡現状変更等許可申請は、48件が提出された。このうち史跡の実態解明のための計画的発掘調査に関わるものが5件（内1件は前年度に申請済で今年度実施、1件は次年度実施予定で今年度は申請書の提出にとどまるものを含む）のほか、8件の申請についてのみ事前の発掘調査を実施している。計画的発掘調査を除いてこれら現状変更の施工に当たっては齋宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立会いを条件として許可を得ていることから、各申請者からの連絡を得たものについて、これに応じて掘削等に伴う工事立会いを実施している。

なお、以下に各現状変更申請について（A）個人等の民間による申請、（B）公共機関及び企業等による地域住民の生活環境の整備に関わる申請、（C）史跡環境整備及び史跡の維持管理並びにその活用等に伴う申請、（D）県が行う史跡の実態解明のための計画的発掘調査を実施するに当たっての申請に分けて、その内訳について若干ふれておきたい。

（A）個人等による申請

史跡内住民をはじめとする個人等による申請は28件あり、そのうち保存管理計画における土地利用区分のうえで第3種保存地区に於いて住宅や店舗の新築及び盛土を内容とする申請4件と、前年度中に申請済の倉庫の新築及び住宅新築を内容とする2件の計6件について、国庫補助事業の対象として事前の発掘調査を実施した。また、第1種保存地区内での住宅新築と第3種保存地区内での共同住宅新築を内容とする申請の2件については、現在のところ事前の発掘調査は未実施で、その取扱いについて検討中である。

なお、住宅や農業用倉庫の増築及び改築に関する申請は20件提出されているが、いずれも保存管理計画における土地利用区分のうえで第4種保存地区に相当していることから、事前の発掘調査を実施し得るには至っていない。また、住宅の新築と倉庫の建築を内容とする2件については過年度に既に事前調査を実施済で、工事立会いを条件として許可を得ている。

（B）公共機関等による地域生活環境整備に伴う申請

明和町及び町教育委員会による道路や排水路の整備等公共事業が9件、NTT及び中部電力による電柱立替えが2件ある。このうち通称中町排水の改修（うちL=270m、残りは次年度実施予定）及び通称齋王排水の新設（L=310m）についてのみ第102-6次及び第102-8次調査として経費を原担者負担により事前の発掘調査を実施している。

（C）史跡環境整備及び維持管理等に伴う申請

史跡の維持管理及び活用にかかわる事業等について4件の申請が出されている。この内訳は、史跡内の樹木の枯死に伴う補植を内容とするもの、かつて齋宮跡の顕彰のため地域から神宮司庁に寄進された「齋王の森」を囲む柵の修繕に関わるもの、地元町の文化協会による齋宮跡顕彰のための万葉歌碑の設置を目的とするもの、並びに史跡指定15周年を記念し、併せて史跡の普及と活用のため開催されたイベントの会場仮設を内容とするものである。

（D）計画的発掘調査のための申請

これは三重県教育委員会が主体となり、齋宮歴史博物館が担当して実施している史跡の実態解明のための調査で5件の申請が出されているが、平成5年度分は内4件3,080㎡で他の1件は次年度に実施の調査（第105次調査）分である。なお、年度当初に実施した第99次調査に関わる申請は既に前年度に提出済である。

平成5年度現状変更等許可申請一覧表

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	竹川字中垣内456	A	大西盛利	個人倉庫改築	5.4.9	5.4.30	51.51㎡	4	
2	斎宮字楽殿2910	C	明和町教委	樹木の補植	5.4.9	5.10.19	約35本	1	
3	斎宮字楽殿2910	C	神宮司庁	柵の修繕	5.4.19	5.5.14	—	1	
4	斎宮字鍛冶山2758-2	A	岩見文夫	個人住宅改築	5.4.19	5.4.30	52.69㎡	4	
5	斎宮字楽殿2915-1他	C	明和町文化協会	歌碑の設置	5.4.22	5.9.2	9㎡	1	
6	竹川字花園663-1他	A	中川速雄	盛土	5.4.23	6.6.24	1,223㎡	3	第102-3次調査
7	竹川字南裏255	A	樋口治彦	個人住宅改築	5.5.13	5.6.21	157.30㎡	4	
8	竹川字東裏264-1	A	田所利郎	個人住宅改築	5.5.14	5.5.31	41.69㎡	4	
9	竹川字中垣内493-6	A	川口清一	店舗の新築	5.5.14	6.2.25	118.73㎡	3	第102-5次調査
10	竹川字中垣内456-1	A	大西盛利	個人住宅増築	5.6.8	5.8.5	79.50㎡	4	
11	竹川字古里580他	A	池田幸泰	共同住宅新築	5.6.15	—	1,443㎡	3	未調査
12	斎宮字篠林地内	B	明和町	排水溝の設置	5.6.18	5.7.8	L=23m	1	
13	斎宮地内	B	明和町	舗装の改修	5.6.24	5.7.9	L=295m	2	
14	竹川字中垣内423	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	5.6.28	5.8.18	400㎡	3	第100次調査
15	斎宮字牛葉3035-2	A	中瀬正実	個人住宅増築	5.6.29	5.7.15	17.10㎡	4	
16	斎宮字篠林3194他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	5.7.7	5.7.26	700㎡	1	第101次調査
17	斎宮字牛葉321	A	乾秀治	個人住宅増築	5.7.9	5.8.3	148.14㎡	4	
18	斎宮字木葉山128-2	A	山本佐七	個人住宅増築	5.7.9	5.8.5	77.84㎡	4	
19	斎宮字西加座2773-1	A	細井国太郎	事務所改築	5.7.13	5.8.4	51.61㎡	4	
20	斎宮字西前沖3550-2	A	今西廣明	個人倉庫建築	5.7.13	5.9.1	71.84㎡	4	
21	竹川字東裏269	A	山口典保	個人住宅増築	5.7.26	5.8.24	54.84㎡	4	
22	斎宮字東前沖2480	A	倉田公子	個人住宅増築	5.7.27	5.9.24	108.36㎡	4	
23	竹川字東裏365-1	A	樋口泰弘	個人住宅新築	5.7.27	5.12.20	529.57㎡	3	第102-4次調査
24	竹川字古里559-18他	C	明和町	イベント会場架設	5.8.2	5.9.21	—	1	
25	斎宮字中西2755-1	A	七林貞次	個人住宅増築	5.8.6	5.8.24	69.14㎡	4	
26	斎宮地内	B	明和町	街灯新設	5.8.9	5.8.30	3か所	—	
27	斎宮字中西2753-1	A	佐々木敬	個人住宅改築	5.8.25	5.10.18	115.23㎡	4	
28	斎宮字牛葉3013-1	A	須賀真司	個人倉庫増築	5.8.26	5.9.21	55.81㎡	4	
29	斎宮字柳原2779-3他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	5.8.31	5.10.26	1,160㎡	1	第103次調査
30	竹川字東裏318-1	A	川本正武	個人住宅新築	5.9.30	6.6.24	494.10㎡	3	第102-7次調査

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
31	斎宮中町 地内	B	明和町	町道側溝設置	5.10.15	5.11.30	L=124m	2	
32	斎宮字篠林3206-2他	A	黒田栄吉	個人住宅新築	5.10.20	—	335.27m ²	1	未調査
33	斎宮中町 地内	B	明和町教委	排水路改修	5.10.20	5.12.28	L=470m	2	第102-6次調査
34	竹川字東裏 地内	B	明和町教委	排水路改修	5.10.21	5.11.4	—	3	
35	竹川字東裏 地内	B	明和町	側溝改修	5.10.21	5.11.4	—	3	
36	斎宮字楽殿 地内	B	明和町	側溝新設	5.11.4	5.12.20	L=310m	1	第102-8次調査
37	斎宮字中西2737-1	A	服部末彦	個人住宅改築	5.11.8	5.12.1	28.12m ²	4	
38	斎宮字木葉山128-2	A	山本佐七	個人倉庫建築	5.11.8	5.12.2	52.80m ²	4	
39	斎宮中町 地内	B	N T T	電話柱移設	5.11.10	5.12.13	7か所	2	
40	斎宮字牛葉313-1 他	A	山本叶	個人住宅改築	5.11.30	5.12.15	56.00m ²	4	
41	斎宮中町 地内	B	(株)中部電力	電力柱移設	5.12.11	6.2.2	1か所	2	
42	斎宮字出在家3237-1	A	里中隆	個人住宅建築	5.12.20	6.2.14	119.40m ²	3	
43	竹川字東裏264	A	田所末雄	個人住宅改築	5.12.27	6.2.4	102.02m ²	4	
44	斎宮字東加座2431-1	A	北村重雄	個人倉庫建築	6.1.11	6.2.15	81.10m ²	2	
45	斎宮字笛川1048-1 他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	6.1.12	6.2.3	450m ²	3	第104次調査
46	斎宮中町 地内	B	明和町教委	道路簡易舗装	6.1.26	6.4.5	L=216m	2	
47	斎宮字鍛冶山2369-6	A	三田英郎	個人住宅増築	6.2.21	6.3.22	62.72m ²	4	
48	斎宮字鍛冶山2758-1	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	6.3.25	6.4.22	450m ²	3	第105次調査

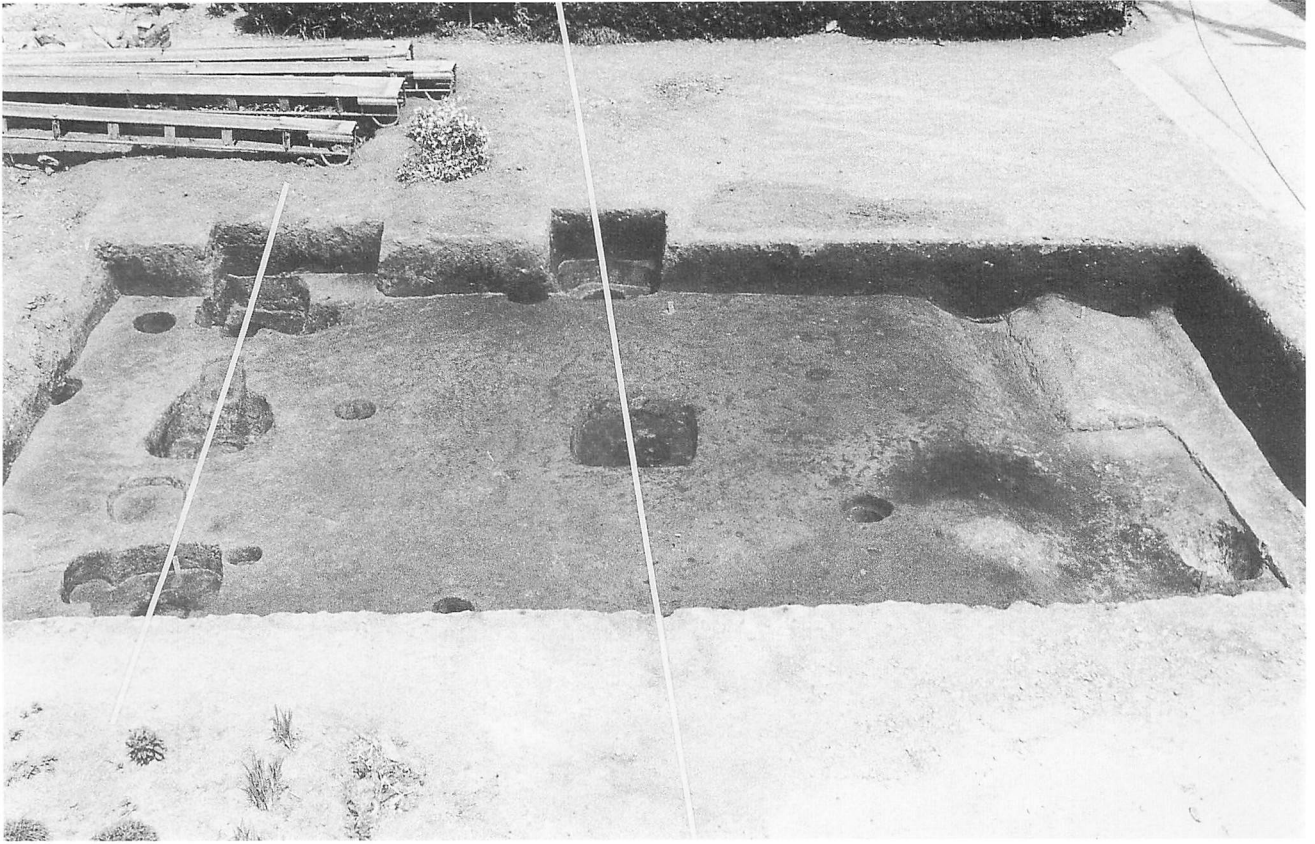
掘立柱建物等一覽表

遺構番号	規 模	棟 方 向	桁 行 (m)	桁 行 (m)	柱間寸法 (m)		時 期	備 考
					桁 行	桁 行		
第102-1次調査 (6 A D S)								
SA7070	(2)	N 4°W	(5.92)	—	2.96	—	平安初期?	
SB7071	(2)×—	N 4°W	(4.8)	—	2.4	—	平安初期?	
第102-4次調査 (6 A C F - A)								
SA7090	(3)	N14°E	(6.3)	—	2.1	—	奈良時代	第64-10次柱穴へ接続、総長4間8.4m
SB4695	(2)×2	N14°E	(3.8)	3.8	1.9	1.9	奈良時代	
第102-7次調査 (6 A C G - E)								
SB7124	(3)×(1)	N30°E	(7.2)	(2.4)	2.4	2.4	奈良時代?	
SB7125	3×(1)	E23°S	5.4	(2.1)	1.8	2.1	奈良時代?	
SB7126	(2)×(1)	E23°S	(3.6)	(2.1)	1.8	2.1	奈良時代?	
第102-8次調査 (6 A E I・6 A E J)								
SB7136	—×2	N11°E	—	4.8	—	2.4	平安時代?	
SB7137	—×2	N 5°E	—	3.6	—	1.8	平安時代?	

ふりがな	しせきさいくうあと へいせい5ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはくつちょうさほうこく							
書名	史跡斎宮跡 平成5年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	11							
編著者名	吉水康夫・野原宏司・大川勝宏・赤岩 操・森田幸伸							
編集機関	斎宮歴史博物館							
所在地	〒515-03 三重県多気郡明和町竹川503番地 Tel05965-2-3800							
発行年月日	明和町教育委員会 1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 斎宮跡	たきぐんめいわちうさいくう 多気郡明和町斎宮他	24442	210	34°32'10"	136°37'00"			
第102-1次 調査	さいくうあざかじやま 斎宮字鍛冶山					19930405 ~930423	60	車庫新築
第102-2次 調査	さいくうあざかじやま 斎宮字築殿					19930611 ~930726	90	住宅新築
第102-3次 調査	たけがわあざはなぞの 竹川字花園					19930511 ~940329	390	盛土
第102-4次 調査	たけがわあざひがしうら 竹川字東裏					19930914 ~930930	50	住宅新築
第102-5次 調査	たけがわあざなかがいと 竹川字中垣内					19931005 ~931209	260	店舗新築
第102-6次 調査	さいくうあざかじやま 斎宮字鍛冶山 地内					19931216 ~940317	270	側溝改修
第102-7次 調査	たけがわあざひがしうら 竹川字東裏					19940202 ~940317	250	住宅新築
第102-8次 調査	さいくうあざかじやま 斎宮字築殿 地内					19940203 ~940314	310	側溝新設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
第102-1次 調査	官衙		柵・掘立柱建物		土師器・山茶碗		八脚門につく柵の東辺	
第102-2次 調査			溝		土師器片			
第102-3次 調査			溝		弥生土器・山茶碗		西部の水田で初の調査	
第102-4次 調査			柵・掘立柱建物		土師器片			
第102-5次 調査			方形周溝墓・土塚・溝		弥生土器・土師器			
第102-6次 調査			溝		土師器片			
第102-7次 調査			掘立柱建物・溝・土塚		土馬・墨書土器・転用硯			
第102-8次 調査			溝・土塚		風字硯・緑釉陶器			

图

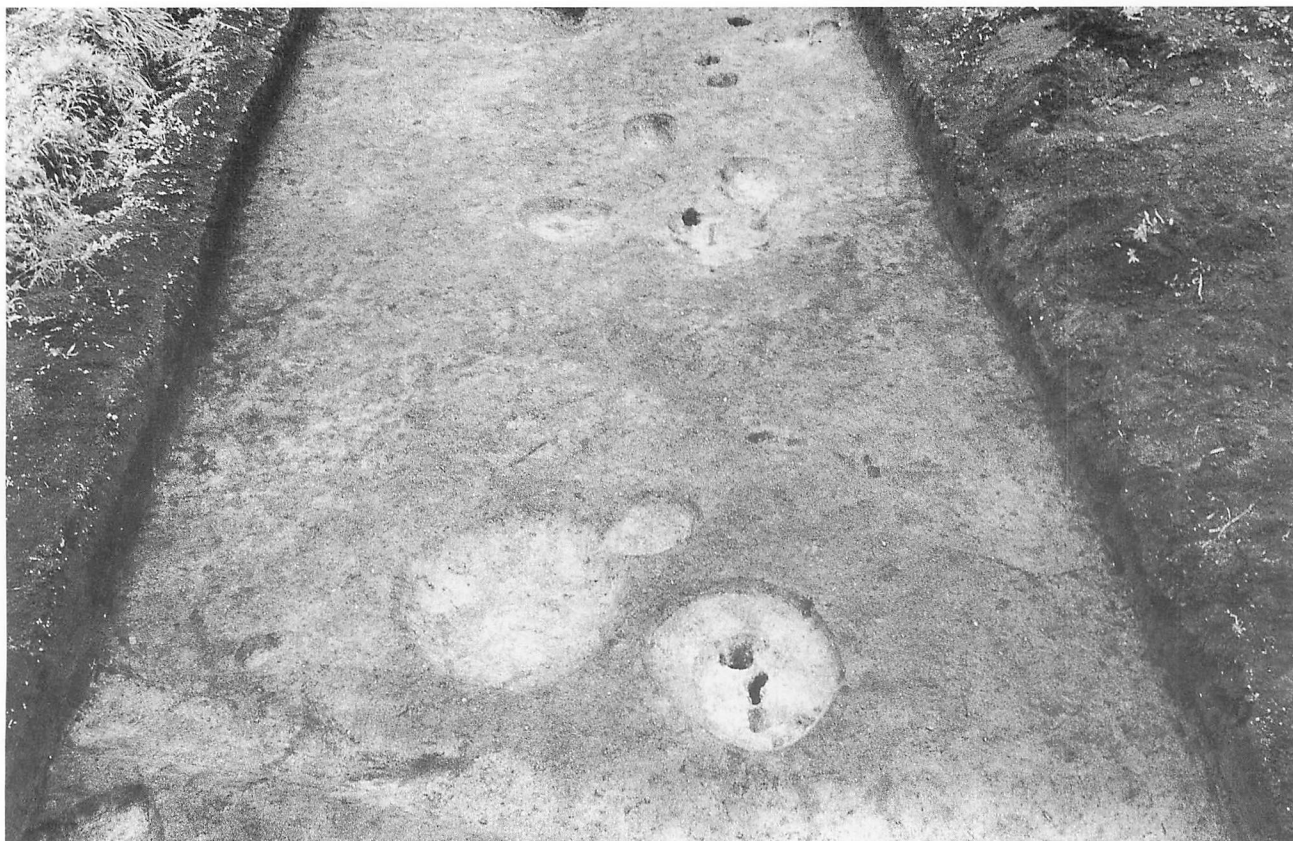
版



調査区全景（南から）



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



調査区東半（北から）



申請地北半（南西から）



S D 7080（南西から）



S D 7085（南西から）



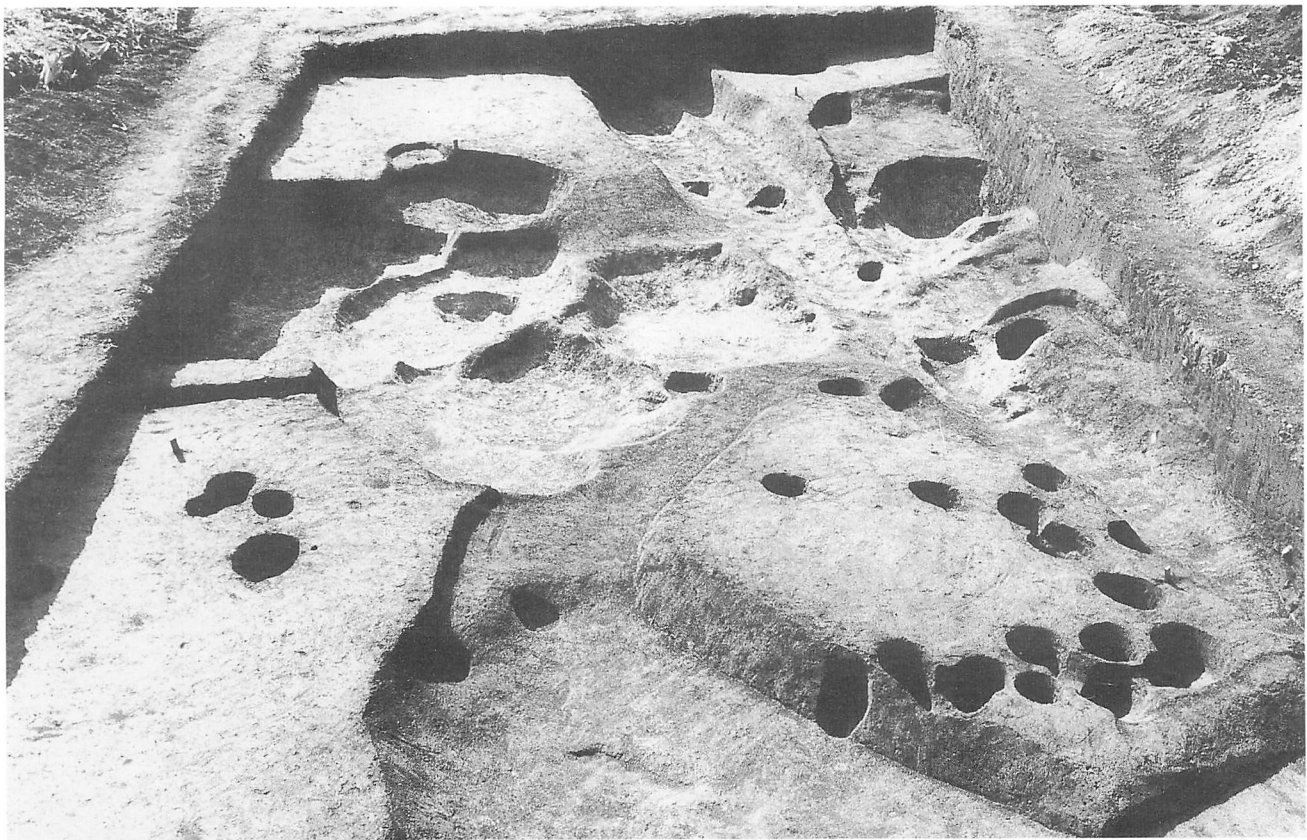
調査区全景（南東から）



S A7090（南から）



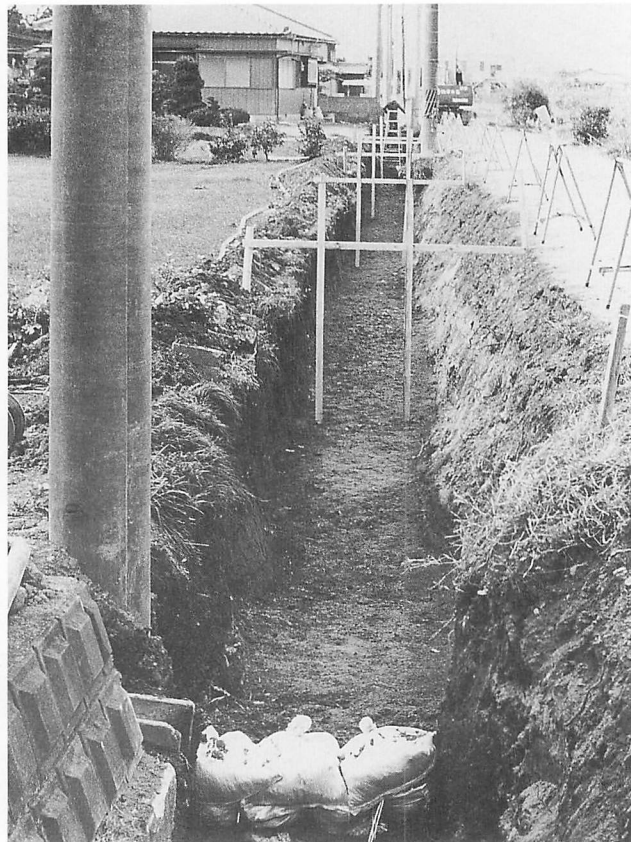
調査区全景（北東から）



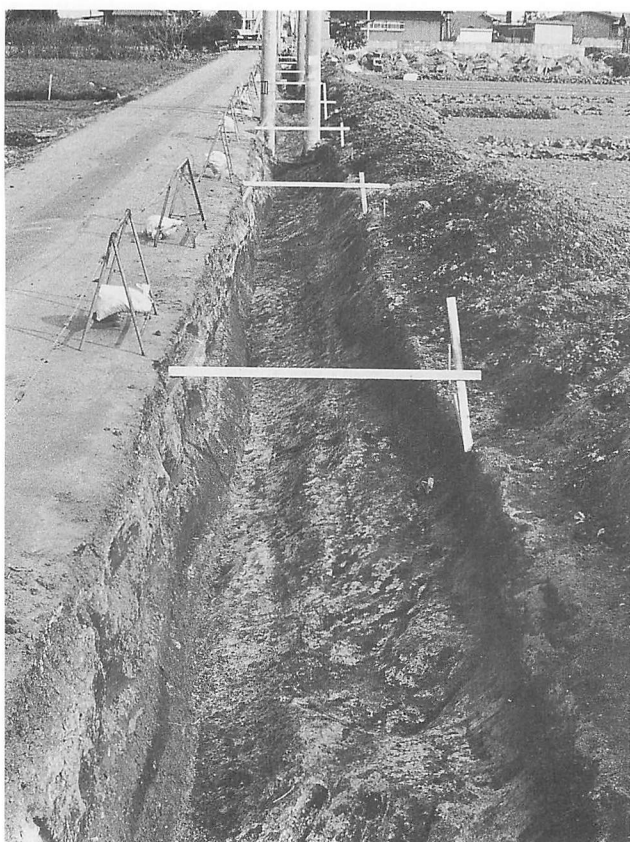
調査区南端（北東から）



A区 (西から)



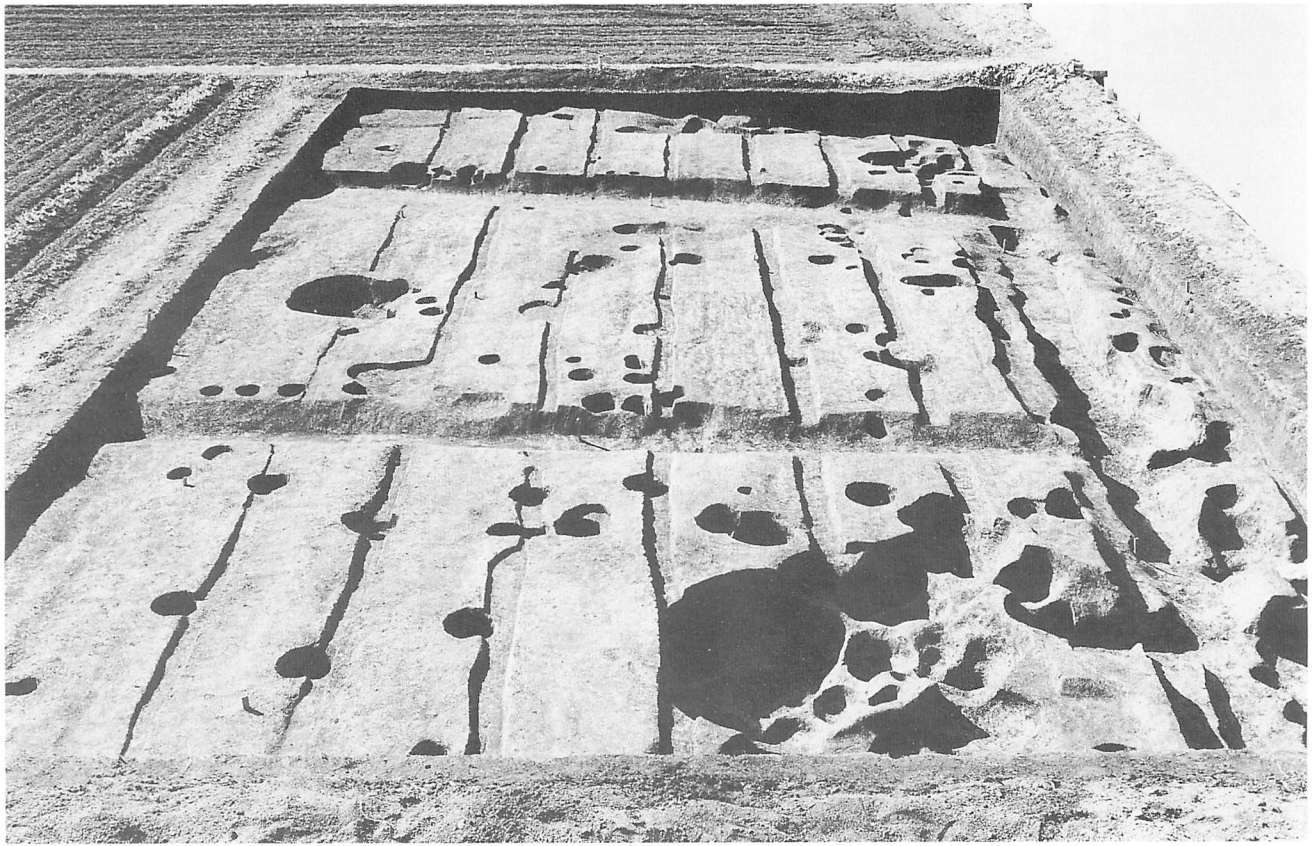
B区 (東から)



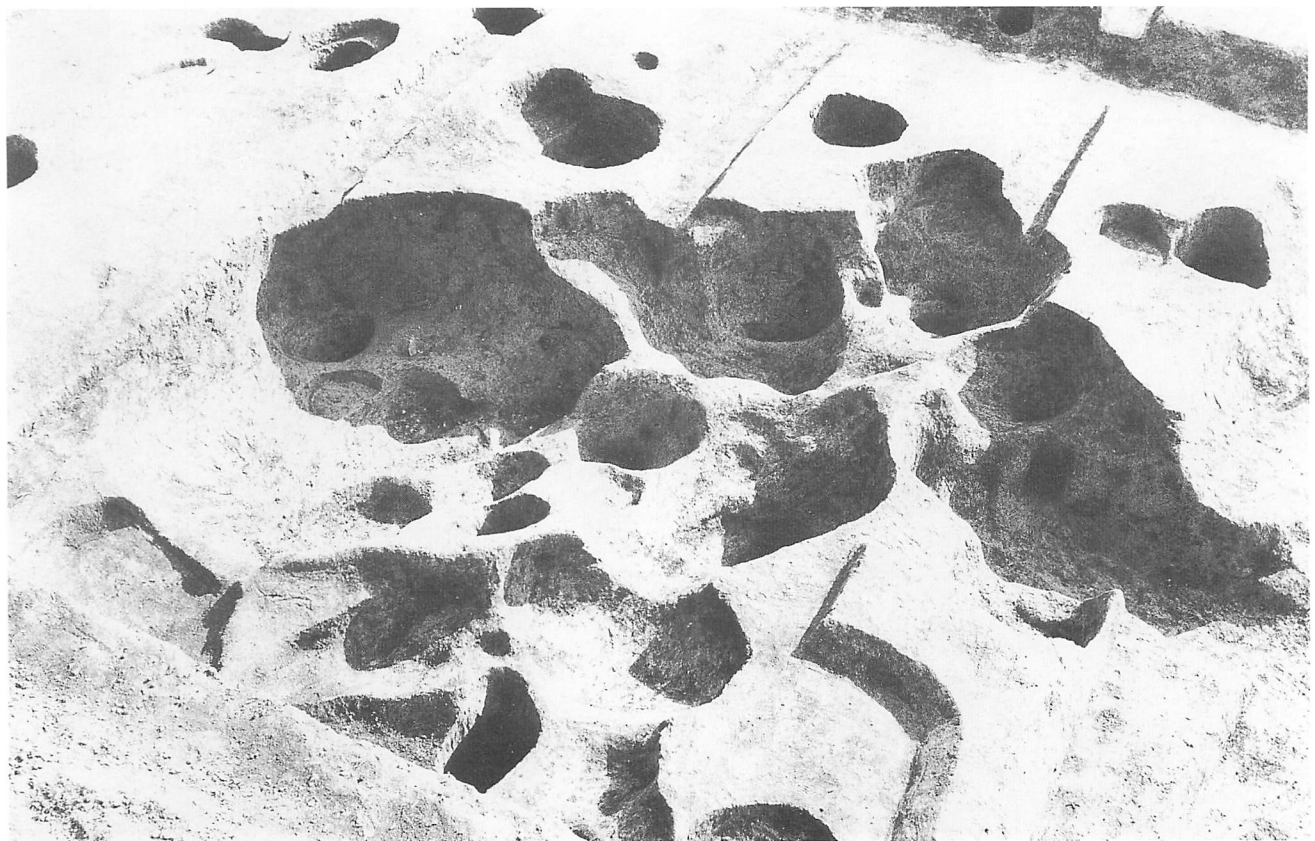
C区 (西から)



D区 (西から)



調査区全景（北東から）



S K7135（北から）



A区 (東から)



B区 (西から)



C区東半 (西から)



C区西半 (西から)

通行止
田代町建設課
場所 明和町寄三地区
期日 平成6年 2月1日
至 平成6年 3月31日
施工 株式会社 田代組
明和町建設課

史跡 齋宮跡
平成5年度現状変更緊急発掘調査報告

平成7年3月31日

編集 齋宮歴史博物館
明和町教育委員会
発行 明和町教育委員会
印刷 光出版印刷株式会社
